

孝中子物院

德社重文書

911.9

八

美早來兮為玉
健一有之千七
親

萬壽無疆



身成し新刊

俳諧季義 兼後堂系板

掌
中
手
挑
燈

紅書林
任森堂梓

俳諧手挑灯

目錄



一 四季之詞 但春三月ハ用ル本有三月ハ通ハ季六
右の下ニ如此黒星ヲ付置四季共同断

并 年中諸國祭礼

一 雜之詞

一 贊物

一 神祇 非神

一 天象

一 降物

一 秋教 非秋
并雨部

戀コイ非恋

迷懷ミヨロ非迷

居所キヨシヨ非居

夜分ヤフ非夜

衣服イフク非衣

生類シキウ

旅躰リョ

無常ムジョウ哀傷

人倫ジンリン非人

山類サンライ非山

水邊スイヘン非水

食類シキウ

植物シユツブツ同高低

器財キザイ器財付キザイ付

支躰シテ支體付シテ付

書躰シヨ

風躰フウ

同字ドウジ字去之事

同付字之辨ドウフジジノハジ

月之辨ツキノハジ

以呂波寄イロハヨシ手介於兼大縣

名所ナトコロ名所付ナトコロ付

火躰ヒ

病躰ビョウ

同別ドウベツ陰

賦物取樣フツモノトリサマ

花之辨ハナノハジ

一發句切字 并發句 歌仙

以上

俳諧手挑灯

凡例

哥一首、三十一字

素色く、夏末にけし、白妙の衣ほきて、ふゆの香之山

此は例つきみ歌也 篇序題曲流

六より七よりみ文字 七より七也

此中各々三十一文字

上の句篇序題に下の句曲流なるを所
又上の句曲流下の句篇序題あり

調の姿 カタ 六義也 風賦比興雅頌 ト云

連歌 レンガ 俳諧 ハイカ 八哥一首の上の句下の句と二句に分ては

連句 レンク 上の句に下の句を附下の句に上の句と略に附

哥仙 カセン 八三十六句百員百句する

發句 トハ

一発の勢初發のよきの句に盡るは本まその時々の
意を一切字もひかすうたははる一 四季の細草如
字ひかすうたの發句ゆきまに載りゆく味ひあべ

聯 トハ

トモの句に發句と同 季と結ひ發句のかとよの
うけく文字を季にす
但時作遊連とのちあり遊遊くはまはは
りかのみたとハ 泳生の發句に正月の季うそハ 正月
の發句に泳生の振も日ハ 正月ハ 正月の季 二月 三月の季

第三 トハ

上の句を振ふとくはうはは一 句のたけきく發句
の併にあうさる中うに 聯にける事をす
二つまにける事をハ 正月のうに 三月をに物より
四季の細の形ハ 世は 遊遊と付るハ 二つまにける事を

上の句篇序題に下の句曲流なるをゆき
又上の句曲流下の句篇序題もあり

詞の姿 六義也 風賦比興雅頌

連歌俳諧八哥一首の上の句下の句と二句に分けてゆく

連句上の句に下の句を附下の句に上の句と依るに附

哥仙八三十六句百員六百句すらく

發句トハ

一発の發句初發の上の句に發句は冬は春の句の
多きを切字と云ふすらくたははるる一は春の句
字にやうやくの發句ゆきよまに發句と味ひあふ

聯トハ

下その句に發句と同一字と依る發句のかとよ
うけく文字を添ふはす
他時作聯連とのありありは連しては
ゆきのしたとよは生の發句に正月の季とよは正月
の發句に生生の發句は正月の季とよは二月の季
とよは三月の季

新三トハ

上の句と下を依るまうくははるる二句のたけまうく發句
の序にありとよはるるに正月の季とよは二月の季とよは三月の季
とよは四月の季とよは五月の季とよは六月の季とよは七月の季
とよは八月の季とよは九月の季とよは十月の季とよは十一月の季
とよは十二月の季

名残表十句内十句ノ月

同裏六句内五句ノ花 是とふはひの花とふ

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韻法

初表 八句内 七句ノ月 十三句ノ花

同裏 一折 十四句内 九句ノ月 十三句ノ月

同裏 一折 十四句内 九句ノ月 十三句ノ月

三ツ表 十四句 右同漸

同裏 一折 十四句 右同漸

名残表 一折 十四句 右同漸

同裏 一折 八句内 七句ノ花句ひの花之此裏月也

右四折合テ百員也
初ノ二折と五十員ト云

四十四法

百員の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員のノ

七十二候

百員の初折ト三折ト名残の折ト三折合テ七十二候

右三折ニ月五ツ花ニツ法百員のノ

名残表十句内十句月

同裏六句内五句花 是とふほひの花と只

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韵法

初表	八句内	七句月	十三句花
同裏	十四句内	九句月	十三句花
同裏	十四句内	十三句月	
同裏	十四句内	九句月	十三句花

三表 十四句 右同漸
 同裏 一折 十四句 右同漸
 名残表 十四句 右同漸
 同裏 一折 八句内 七句花句ひの花と此裏月す
 右四折合テ百員也
 初ノ二折と五十員ト云

四十四法

百負の初折ト名残の折ト合テ四十四句す
 右二折二月三ツ花ニツ法百員の

七十二候

百負の初折ト三折ト名残の折ト三折合テ
 右三折三月三ツ花ニツ法百員の

源氏法

初表

六句内 五句月

十句花

二表

十二句内 七句月

十句花

同裏

十二句内 七句月

十句花

名残表

十二句内 十句月

十句花

同裏

六句内 五句花

十句花

右三折二月五句花三哥仙法のどくり
哥仙二折共四句をくくろのたう

米字

八十八句

初表

八句内 七句月

十句花

同裏

十二句内 七句月

十句花

二表

十二句内 十句月

十句花

同裏

十二句内 七句月

十句花

三表

十二句内 七句月

十句花

同裏

十二句内 七句月

十句花

名残表

十二句内 七句月

十句花

同裏

十二句内 七句月

十句花

右四折二月七句花四ツ

八句内 七句月

十句花

首尾

哥仙

初表 六句 五句月

合テ十二句云云

百員

初表 六句 五句月

合テ十六句云云

名残裏

八句 七句月

合テ十六句云云

二表 十二句 内 十句 月
同襄 十二句 内 七句 月
三表 十二句 右同 朔
同襄 十二句 右同 朔
名義 十二句 右同 朔
同襄 十二句 内 八句
右 折 月 七 花 四 卷

首尾

哥仙 六初表 六句 五句 月 合 十 句 卷 五
名義 六句 五句 卷

源氏法

初表 六句 内 五句 月
同襄 十句 内 七句 月
同襄 十句 内 七句 月
同襄 十句 内 七句 月
名義 十句 内 十句 月
同襄 六句 内 五句 月
右 三 折 月 五 花 三 哥 仙 法 之 一
哥 仙 二 折 月 四 句 之 一 卷

米字

初表 八句 内 七句 月
同襄 十句 内 十句 月

裏白

六句カ
八句カ

表斗リスラ云

面白

十二句カ
十四句カ

裏斗リスラ云

三ッ物

発句股第三マテ三句スラ云

月

發句ハ初春の月也云々

花

發句ハ初春の花也云々

他ハ初春の内也云々

發句

春ハ初春也云々

同

春ハ初春也云々 有り無し

同

春ハ初春也云々 有り無し

同

春ハ初春也云々

同

春ハ初春也云々

會席

文彦に初春の會席也云々

連句

春ハ初春也云々

裏白

六句カ
八句カ

表斗リスルヲ云

面白

十二句カ
十四句カ

裏斗リスルヲ云

三物

発句股第三マテ三句スルヲ云

月

發句ヲ振ウオシニヤシクハ初春の月也云

花

發句ヲ振ウオシニヤシクハ初春の花也云
但し一四もハオシニヤシクハ初春の内ノ云々云

發句

春もハ振も春もハ振

同

春振もハ振も春振

同

尺貫もハ振も尺貫

同

迹懐を春ハ發句トテ云々云

同

春の時のハオシニヤシクハ初春の内ノ云々云

會席

文彦に初春の節を振テハ初春の内ノ云々云

連句

春仙舞一頁貞未の内ノ云々云

一順トハ 後句より去序の人教育は身一百のそとをいふ

再遍トハ 太の人教の句又一海より三はといふ

聯トハ 妻及秋冬三句より夏冬二句より意三句皆序宛

吟声トハ 句を言ふ意にこそいふをいふ

回嶋トハ 吾人より二句も三句も序宛とするをいふ

獨吟トハ かせんいも百いんもきんうてするをいふ

両金トハ けいけい二人よりするをいふ三吟み吟もけいけい

前句トハ 我より主人の句をいふ

遅吟トハ 句他りの句をいふ

秀逸トハ 並られて後句をいふ

巻頭トハ 後句をいふ

添削トハ 一巻の長と字通へをいふ

即点トハ 不違点を出るをいふ

批言トハ 句の何き所を添削するをいふ

一 順トハ

後句より去序の足教育は第一句よりあるをいふ

再 遍トハ

右の人殺の句又一再り此はをいふ

聯トハ

妻及秋冬之句より及冬二句より妻之句等此は
聯うまをいふ

吟 声トハ

句と音と聲にあらざるをいふ

回 鳴トハ

吾人より二句も三句も皆あるをいふ

獨 吟トハ

かせんにも百ねんも吾人よりするをいふ

兩 金トハ

日一々二文とすも三文とすも日一々

前 句トハ

我下有す人の句をいふ

遅 吟トハ

句他句の句をいふ

秀 逸トハ

並られて後句をいふ

卷 頭トハ

後句をいふ

添 削トハ

一巻の長と字通へるをいふ

即 点トハ

不迷点(出)来るをいふ

批 言トハ

句の所を評して案通しうごうあをせざるをいふ

加筆トハ 巾のやき所とあるて古傳さるる

褒美トハ 巾を褒美するのみなり

筆句トハ 陣中のかに枕巻よりするもはやくはききわたり
枕巻のよさを思ふてりさるる

打越嫌トハ 付てはるすかばいと二句をさるとふ

二句去トハ 付わより二句をさるとふ

三句去トハ 付てはるすかばいと二句をさるとふ

字去トハ 付わより二句をさるとふ

五句去トハ 付わより五句をさるとふ

袂カサや竹田タケノの釈トクちチ後ノチ深コ月ツキ松マツ枕カサ腰カサのノ句コト

巾を折面うのりをもみわをさる

七句去トハ 付わより七句をさるとふ

面去トハ 百負八面の二面とへらと云傳も表も下而裏も下而と

折去トハ 百負四折の二折とへらさるるなり

二三四八トハ 巾を枕巻にさると百句にさると

△

訓に四ッ有りのハ音も四ッ有

百子万のこし一刺音
ふりくハ面去なり

名所イニシヨ 國名クニナト 在名等ライメイ 或ハ官名ウシメヤウ 苗字メウジ 人の名ナノナ かに呼ヨウとハ

名所ナト 亦ありハ水辺山類ミヅノヘヤマノト 亦ありハ石イシの躰カミと道ミチ

時々の草木キヨク 菓句クサノコト 段喰物シヅメモノ にまればその季キハ持モチをたす植物

とのかへて魚ウナトリ 鳥獸チウモク 亦喰物シヅメモノ にまれば其季キハ持モチをたす生れ

のさへて紋所モンジ 或ハのちノチにまへても季キハ持モチをたす躰カミハのち

るる季キ

秋奠アキノシ 秋アキ 二度ニド の道ミチ も春ハル 後ノチ もの秋アキ

艱父入ケンフイリ 秋アキ 二度ニド あれも春ハル 後ノチ もの秋アキ

離ハレ 三月ミツキ 二度ニド 立タテ れも春ハル 後ノチ もの秋アキ

峯入順ミネイリ 春ハル 通スウ 秋アキ 二度ニド あれも峯入ミネイリ と斗ト 秋アキ

古代コノコト より初表ハジメ の内嫌ウチノイヤシ ひ来る物モノ の中に古人コノコト の名ナ の事コト 聖賢セイケン

公家クダ 武家ブケ 或ハ歌人ウタヒト 儒者ニホヒヤ 医者イシヤ 町人マチヒト 百姓ヒヤクシヤウ 能役者ノビヤクシヤ 職人シヨクヒト 等ト

の神祇カミヤ 秋教アキノシ 意無常イニシヤウ 迷懷ミワイ 衰傷シヤウキヤウ 等ト にありて古コノコト の名ナ

訓に四有りの八音も四有る百子万のこし一刺音

名所 國名 在名等或官名 苗字 人の名をよに呼ぶ

名所ありは水辺山類ありは水舟の躰と道

時々の草木葉匂段喰物にまればその季は持なり植物

とのくく魚鳥獸も喰物にまれば其季は持なり生れ

のうら紋所或のやうなまも季は持なり躰のう

うらま

秋奠秋 二度のまも春後のまも秋後

親父入秋 二度あれも春後のまも秋後

雛三月 二度立れも春後とまも秋後

峯入順春 二度あれも峯入と斗秋

古代より初表の内嫌ひ来る物の中に古人の名の事聖賢

公家武家或歌人儒者医者町人百姓能役者職人等

表の内苦一かゝる尤在るも其一同名所の事神祇
教慮無常述懐等なるも名所並國名町那等表乃
内苦かゝる旅体右同新
野々口立浦夜詠云七十二候花信詩抄等之季雜諧取捨
有事也詩歌を引り同断七十二候に蜻蛉鳴夏詩小鳴蛙
秋ふれも連俳もに春之和哥に牡丹春花信棟春これ
らと連俳も夏此もを去りて詩歌候と引或

詩書等より異様ある季と見出し俳諧と錯乱すべし
當時の四季正月元朝より極月に至細々此書に記置
るも不通成季不用

餘兵の事古来なきもひもつものころより百員乃奉
句に發句ありて常の折あるごとく句を繼て表八句裏十
四句月花并太無等常の百員の法式少し違へり
百員結ひ次で續二百員或續三百員と呼也

百員に二句の物も餘與ふ又出次

但レ余與うつり二句去三句去の物ハ式に本五句去七句

去面去折去物と多く三句去とす

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞ダイコウ帝テイ勾芒コウマウ神カミ蒼天ソウテン

東君トウキミ

詔ミコトノコト光ヒコ

夏正カキマサ

正月

大簇オホササ律リツ立春リツチン節セツ雨水ウスイ中ナカ初陽ハツヨウ青陽セイヨウ

孟春メイシュン

陬月ソウゲツ

睦月ムツキ

端月タンゲツ

初冬月ハツトウゲツ

ハニ并月

冬前月

元日

元朝

元旦

元三

明

雞旦

改旦

叔氣

聖節

履端

年始

年頭

改年

甫年

新正

三朝

三始

三元

復新

新春

子代の妻

君の妻

徳代の妻

四方の妻

花の妻

君の妻

小の妻

けの妻

その妻

あつち

日の始

年の初

ひのき

あつち

年々

四方

腹赤

朝拜

群臣

氷乃

腹赤

屠蘇

井開

井開

祇園

國柶

年神

年神

年棚

宮棚

年德神

年神

年棚

宮棚

年德神

年神

年棚

福鍋

押鮎

惠方

標

かんと後

穂長

太箸

惠方柵

注連飾

初鶏

俵子

大服

田作

裏白

掛鯛

年男

齒朶

初霞

以一着

鏡餅

開豆

福藁

庭寛

数の子

齒固

初空

喰積

初脣

脣開

中一玉

御慶

門松

但作うさぎのり 柿大佛かきうり

元々

蓬菜かぶら 棋子ま 枕まくら 木かさき 元々もと

おさうりお 元々もと

い孫法い 元々もと

福寿艸ふくじゆ

い孫い 元々もと

弓始ゆみ 初はつ

宝船たからぶね

書かき 吉書きち 筆始ふで 初硯はつ

弓始ゆみ 初はつ

万歳

福引

初夢

弓始ゆみ 初はつ

謡初

室引

若餅

大黒舞

舞初

毬打

葩煎

名ひし包

彈初

ぬり

水飴

猿まじり

松離

水祝

春駒

船乗初

吹初

たほ弓

たほ矢

たこ板

蔵開

鳥追

松の内

船玉祭

店卸

初賣

初買

湯殿初

春永

歳旦閑

節振舞

羽子

初芝居

ニのクワイとのゆり

懸想文

糸子で初まふりありの

のまの

馬乗初

三夕日

鏡開

四日

六日年越

若菜摘

あぶら

とちろく摘

七種

佛座 俗田子

蘿蔔 俗大根

白馬節會

七日のお初まふりありの

踏歌

男ごころ十五 女ごころ十六日

六餅 同上

厄神系

十九日八幡系諸一七篠民お來の
れとりくもてゆくあり

吉田清枝 五首

初天神 廿五日

初不動 廿八日

繪踏 西玉なり
切支那と

縁にきて踊まはるあり三月十六日
より三月十九日踊まはる

遊行札切

正月十六日に一巻の札切
一日の四一日の内は板と

押仕只成田押さるれ敷中
一巻中より不返なくあり云

間廣すあり

廿日後の字入ては
七月十五日

梅 くの初まの葉茶 芳茶茶
ぬ又木 湯有梅 丸梅梅 やり梅

柳 志新 風茶茶
あくらあくら

え之神 柳葉 川柳 小神
めえり新 茶柳 柳穂

鶯 合れ者 ぶらうて 香きるこそ
葉茶茶 あわひる 徒よとる

霞 八重つは
あはれりの夜

雪の葉 雪まやえ 郭公結ひ反 糸
若草 指木 子毛 糸結ひても雲

若草 初葉 抄葉 むとま
こはうつる葉

雪解 ゆきさる
ゆきある

山後ふ じくの茶茶茶と
ゆきさる

春鷹 白尾 継屋
朝鷹 泊山

遊糸 陽炎 野馬
系抄ふうけふ

佐保姫 姫とつともあかりあり

風光 湯糸のむささ
と吹風あり

百千鳥 百千鳥

松の花 松の花
あまのり 初とやう

苔 苔のり あらゆる
あまのり 初とやう

青と 踏 春茶茶茶の
あまのり 初とやう

夜 夜とつこい 湯糸のむささ
と吹風あり

角ツノのハむシ芦アシ

玉江タマエ咲サキのハ水ミヅ鳥トリ轉マシ

罌粟ケシのハ着ツキ葉ハ

蓮レンのハ根ネ堀ホリ

鳴ナリ鳥トリ符フ

糸イトのハほほ

落クニのハ臺タ

猫ネコのハ妻メ窓マド

猫ネコのハ妻メ窓マド

野ノ大オ根ネ

木キのハ芽メ

ああぬぬむむ

田タととせせく

若ワカ和カ布メ

黒クロ鳥トリ芋イモ

ああかかしし

雑ザツ菜サイ摘テキ

三サン葉エフ片ヘ

根ネ白シロ草クサ芥カイ之ノ

娘メがガ萩ハギ

魚イサ氷ヒにニ登ノボ

獺カウ魚イサとト祭マツル

麗ウツクシ

長チガハ閑ハシ

水ミヅ和ヤ

鳥トリ轉マシ

菠ホウ菹シュ

暖ナグサ

遲オソ日ヒ

氷ヒ解トク

鶯ウ鳥トリ

独ドク活カチ

鱒マス

凍コウ解トク

春ハル雨アメ

雲クモ雀トリ

防フ風カゼ

鱈タラ

牙サ飯イハ

畑ハタケ打ウチ

鷓シ鴒バウ

土ツチ筆デジ

蛭ヒル

餘ヨリ寒サムイ

畑ハタケ返マゼ

鮓ササ膾カイ

芽メ花ハナ

兒コ花ハナ

暮ク寒サムイ

種タネ物モノ

海ウミ雲クモ

兒コ花ハナ

芹セリ

鳥トリ芋イモ

野ノ老ヲシ

暖ヌグ 獨活トコグサ 雲雀ヒバリ 畑打ヒノチ 餘寒ヨリカ 兒コ花ハナ
 遷日ウツリヒ 鱒マス 防風フウフウ 鷓鴣シロコ 畑返ヒノチ 暮寒ヨルカ 芹セリ
 氷解ヒヤトク 凍解コウゲ 鱸ササギ 土筆ツチヒ 鮒フナ 鮠ウナギ 種物タネモノ 烏芋カウヤ
 鶯鳥ウラハ 春雨ハルノアメ 牙飯サハカ 蜆ハマグリ 芽花メダカ 海雲ウミクモ 野老ノロ

角ツノ 蓮レンの根ネ 堀ホリ 蓮レンの根ネ 堀ホリ 蓮レンの根ネ 堀ホリ
 玉タマ 江エ 咲サキ 水ミヅ 鳥トリ 轉マシ 水ミヅ 鳥トリ 轉マシ
 鳴ナリ 鳥トリ 符フ 猫ネコ の妻メ 窓マド 野ノ 大オホ 根ネ 若ワカ 和カ 布フ
 三ミ 葉ハ 片カタ 三ミ 葉ハ 片カタ 三ミ 葉ハ 片カタ
 魚イサ 氷ヒ に登ノボ 魚イサ 氷ヒ に登ノボ 魚イサ 氷ヒ に登ノボ
 鳥トリ 轉マシ 鳥トリ 轉マシ 鳥トリ 轉マシ
 罌ケ 粟コメ は若ワカ 葉ハ 罌ケ 粟コメ は若ワカ 葉ハ
 落オチ の 臺ダイ 木キ の 芽メダカ 木キ の 芽メダカ
 黑クロ 鳥トリ 芋イモ 黑クロ 鳥トリ 芋イモ
 根ネ 白シロ 草クサ 芥カイ 根ネ 白シロ 草クサ 芥カイ
 蒨セリ 蒨セリ 蒨セリ

鹿尾 ヒシキ

鶯菜

薺 ナツメ

青鱧 アヲメ

薑 ウタキ

干鱈 ヒシメ

酥蛤 ハヤシ

草萌 クサモエ

膏雨 カウ 麦の雨

白魚 ヒラ 目指

東風 ヒナカゼ 和風

今年 コトシ 去年

麦あふぬ

麦あふぬ ハヤシ 麦

春麻 ハルアサ 気氏 ケヂ

棒 ハシ 古代ハを様と色されを執

棒 ハシ 古代ハを様と色されを執

三月

夾鐘 クワシヨウ 律 リツ 驚蟄 キョウセツ 春分 チュンフン 仲春 チュンチュン 陽中

如月 ニホイ

令月 レイグヱツ

衣更着 キサラヒ

梅見月

小草生月 初花月

中和節 チュウワセツ 朔日

吉野の餅 キタノモチ 同上

春日祭 カスガヒ 上中

水間祭 ミヅマツリ 初午

行基祭 ユキノミツリ 二日

遺教經 ユイキョウキョウ 九日

常樂會 ジョウラクカイ 十五日

柱炬火 ハシロ 十五日

比良八講 ヒラヤチカウ 祇園八講 ギエンヤチカウ 同上

淺間祭 アサマツリ 廿日

北野御忌 キタノミヨシ 廿五日

道明寺祭 ミチアカサ 同上

誦念佛 ソウネンブツ 時宗

二月堂の行 ニゲツドウノユキ 朔日 ツキヒ 十五日 イツウジツ マテ

初午 ハツヌ 梅見月

文宣王 顔子 二座 九哲王 飾之

初午 ハツヌ 梅見月

ちんちん 赤坂本と代所

列見 十一日公卿 弁少納言
外記を冠すなり

大改書

献生子

朔日竜とまき成取不
め殺の後へ八送マシ

社日 春分前後
後の辰日

比日藝事 社日翁雨
社日の名なり

治尊酒

社日に酒と飲え
耳の音を治る

薪の能 十四日

七回より 芝流しめい
本名は無名草子と云ふ
よて社日勅門下の名壇に尻抱

左よりとを捕と暖むり
社と勅より夜分也
左よりとを捕と暖むり
社と勅より夜分也

涅槃會

十五日 移入像
仏の別

彼岸

中より三回の時にも云
彼岸のむべんはあり

積塔

十六日 琵琶法師修え
光孝天皇の皇女乃

忌日より 比日
友始も依く 忌と謝り

歳

下歳 じくひ子
かきわらわ

帰鴈

丁の多鶴

燕

日菜 日飯 乙名

蛙

かきわらわ
かきわらわ

虎杖

さくさく

水葱

花ハ
水葱

初雷

中打雷
初いあり

燒野

山を焼やけ
焼やけ

燒野

焼やけ

蛇

蛇
蛇

蛇

蛇

蜂

蜂
蜂

蜂

苗代 種井 種浸
種有種あり

かちる。かちり。ちり。

餅花煎

角落鹿

草のふし紫

薺の花

鳥の巢

みどまのむ

五加木

藍はく

銀杏の花

二日灸

麻まき

松むりり

彼岸櫻

菜の花

大根の花

八重櫻

花と待

かつら系

蛇

初櫻

初花

蒲公

若紫

蝮

馬刀

狗脊

杉菜

孕鹿

鮒

田螺

枸杞

接木

孕雀

蒜

胡葱

野蒜

接穂

雀の子

蕪

蒸鰯

引鶴

引鴨

まろこ

鳳巾

三月

姑洗 律 清明 節 穀雨 中 季春 中和

花飛 竹秋 窗月 襖月 弥生

いやはひ 櫛月

上巳 三日 桃旦 重三元巳 上除 櫛の身付 雛 大裏雛 紙の形 柳うつり

りく酒 茶候 曲水 三日巳 宇蓋 羽觴 飛川 上より至 芝居り也

他終るまでと 沙干 恒長 加多 雨川をく 鶏合 圖を茂

寒食 二月の三日あり 二月八 己の日に枝 瘦什除の枝あり

須戸の枝 上同 源氏 經供養 天王寺 高雄法華會 十日

やまろひむ 善導忌 十四日 壬生祭 十四日ヨリ 壬生の仏 甚目マ 壬生の猿

嵯峨大念佛 十五日

千本念佛 寺中にて

御身拭 十九日 つかの 袈衣行ありと 拭くその身新赤捕檀

人麿忌 十八日 御影供 廿一日 高雄元女詣 廿日

言野社會式 十日 浅草祭 十八日 三社 江戸浅草

梅岩詣 十五日 順の峯入 道の者八社と 峯入と 身秋一本二夜

奉とひくくび水逆の 奉 奉時ふもぬ 阿蘭陀 八社

鞆 鞆 フラコ ニサバリ 若く世人の危しめ 半仙のたふあれもいふり

そとては... 花盛

花盛 花盛 花盛

櫻 はなごけ 一葉搔 八葉搔 際 はなごけ 油羹搔 湯搔 はなごけ 木搔 はなごけ 雲搔

尾足 はなごけ 虎の尾 はなごけ 虎の尾 はなごけ 虎の尾 はなごけ 虎の尾 はなごけ 虎の尾

桃 はなごけ 桃 はなごけ 桃 はなごけ 桃 はなごけ 桃 はなごけ 桃

蓮 はなごけ 蓮 はなごけ 蓮 はなごけ 蓮 はなごけ 蓮 はなごけ 蓮

藤 はなごけ 藤 はなごけ 藤 はなごけ 藤 はなごけ 藤 はなごけ 藤

花盛 はなごけ 花盛 はなごけ 花盛 はなごけ 花盛 はなごけ 花盛 はなごけ 花盛

山吹 はなごけ 山吹 はなごけ 山吹 はなごけ 山吹 はなごけ 山吹 はなごけ 山吹

葉櫻

葉柳

辛夷

長春

犬櫻

東菊

春菊

束の花

李花

木蓮花

九輪草

金錢花

金鳳花

檉の花

竹の秋

小手毬

丁子草

母子草

茗荷竹

仙臺款

小梅の花

林檎乃花

杏子の花

楊梅の花

通草の花

藕妨の花

春蘭の花

木瓜の花

馬蘭

櫻鯛

櫻貝

柳籠

小鮎

八十八夜

山吹衣

若菰

上リ蓑

鷹の巢

呼子鳥

櫻魚

三月尽

三月尽

五形

柳葉魚

郭公巢

そふい鳥

炉塞

三月尽

三月尽

小米花

椋鳥の巢

鳶の巢

引砂麩

火燧塞

三月尽

三月尽

春にわくる、春の阪 春海き 春にふる

春の隣 ゆく春 春れ多味 春色て

春の隣 夏をき 夏と竹 夏と隣

夏 炎帝帝祝融神 昊天 朱明 蒸砂

躡蹟

四月

仲呂 立夏 節小滿中 正陽 孟夏
余月 乾月 初夏 首夏 卯月

郊花月 花名残月 鎮月

更衣 百重 郊の花名 春にわかれ 下 羊袴 袴わき 袴日
孟夏旬 一日天子 下 群臣 病をさるる
筑摩祭 一日

灌佛 八日 佛生會 童花會 湯わき餅
五香水 浴佛 仏の湯

神衣祭 十四日 成積の連 下 神衣 下 神衣
賀茂祭 因祭 中西

日光祭 十七日

玉巻草

玉巻芭蕉

古茶

蘭の花

罌粟の花

綿種蒔

花柚

鴨足草

桜の実

ぬきうす

薔薇

苔の花

桐の花

あちあひ

岩藤

柿の花

茶の葉

うばや茶

一八

手毬花

風車

あうちやく

鸞尾

わくく糸

蓮の葉

萱の莖

踊花

竹の子

岩梨の花

黄檗の花

若楓

笋

糸の糸

石菖の花

蕨椿

すゝのこ

蓮着葉

枳殻の花

蓼

きしりのむ

蓮の葉

厚朴の花

落

利根草

蚊帳

櫻欄の花

紫蘂

紙帳

とくてもうけ

柑子の花

檳柑の花

九年母の花

橙の花

金柑の花

雲州橘の花

常磐木の落葉松杉檜

若葉の花

蠅

蠅虎ハナハシ

蚯蚓出ヒトリ

鹿の角袋

蚤

蚊ハナハシ

子又ハナハシ

擁劔ハナハシ

蛭

飛蟻ハナハシ

枝の燧カニヒン

あまうり鱈

初鯉ハナハシ

鯉釣ハナハシ

蟹醬カニヒン

あまうり賊イカ

蚰蜒ハナハシ

鵲ハナハシ

鵲鳥ハナハシ

青鷺サバ

一夏籠ハナハシ

夏行ハナハシ

安居ハナハシ

夏籠ハナハシ

五月

蕤賓ハナハシ芒種節ハナハシ夏至中ハナハシ仲夏ハナハシ茂林ハナハシ

皐月ハナハシ早苗月ハナハシ鷄月ハナハシ橘月ハナハシ

菖目ハナハシ五日

端午ハナハシ艾虎ハナハシ蒲人ハナハシ赤靈ハナハシ

懺立ハナハシ小幡ハナハシ

甲飾ハナハシ甲人形ハナハシ

菖の節供ハナハシ

あまめはあめれの真ハナハシあめれを刀ハナハシあめれ引ハナハシあまうりハナハシ

粽ハナハシあまうりハナハシ

茅粽ハナハシ

粉團射ハナハシ五日餅ハナハシ

薬日ハナハシ五日

薬玉ハナハシ長命綫ハナハシ續命綫ハナハシ粉絲ハナハシ

薬草摘ハナハシ競馬ハナハシ百州摘ハナハシ

薬日ハナハシ五日

百草と戦いさむの葉と合あ

騎射きや五日右近のままつらひお装束のた襦すの風と

水馬みづうま五日久平をさるめてお後と事奉う

鳧車ひんぐるま同船の至いた

印地打いんぢうち

賀茂の競馬かものけいば五日うらぶおむまささわわひひささややままりり

生玉流筋馬なまたまながすなま五日

住吉御田植すまぎのみでうゑ廿八日

山田御田植やまだのみでうゑ同上

伊勢山川祭いせがわのまつり八日

山田御田植やまだのみでうゑ廿八日
子二百午之夜神供御こひゃくごのよかみ

丹後たんご

有無ありなしの日ひ廿五日にじゅうごにち以日終日所例いひにちしゅうじつしよれい

伊勢山川祭いせがわのまつり八日
子二百午之夜神供御こひゃくごのよかみ

よもぎよもぎを煮てに茶ちやをますますますますま

帷子かたびら拾帷子しゅうかたびら

花はな茶ちやききううららひひととつつ

寂勝講じやくしょうかう清凉殿じやうりやうでん

祇園御輿洗ぎよんごゑし晦日みづかひ夕ゆふ

夏至げし五月ごごの中なか

半夏生はんげしょう夏至げし

十一日じゅういちにち月つき

五月雨ごごのあめ

入梅いりばい梅うめののりり

青梅あおばい梅うめののりり

虎こののりり

鶺鴒せりふ鶺鴒せりふののりり

羽はののりり

黒鴨くろがも鴨がもののりり

蟪蛄かいこののりり

鵲すずめ舌したとと去さるる

百合 ヒヨドリ 花のつらやう

田植 アサヒ 花のつらやう

早瓜 アサガオ 花のつらやう

鏡背草 アサギ 花のつらやう

未摘花 アサギ 花のつらやう

蝸牛 カタツムリ 花のつらやう

照射 アサギ 花のつらやう

麥川 アサギ 花のつらやう

覆盆子 アサギ 花のつらやう

紫陽草 アサギ 花のつらやう

忘草花 アサギ 花のつらやう

樗 アサギ 花のつらやう

野狩 アサギ 花のつらやう

アサギ 花のつらやう

入梅 アサギ 花のつらやう

蒼木焼 アサギ 花のつらやう

榎の木焼 アサギ 花のつらやう

夏菊 アサギ 花のつらやう

天南星 アサギ 花のつらやう

枇杷 アサギ 花のつらやう

早松茸 アサギ 花のつらやう

若竹 アサギ 花のつらやう

早初茸 アサギ 花のつらやう

天蓼 アサギ 花のつらやう

生胡桃 アサギ 花のつらやう

藻の花

青山椒 アサギ 花のつらやう

菱の花

茄子

川葱

根芋

若草

青田

胡瓜

繭

栗の花

茨の花

柵の花

洗毛衣

田舎取

稗詩

和詩

桑の實

花菖蒲

朝露草

青小豆

粟詩

荏苒詩

玉簪

白牡丹

花柘榴

和布と川

若草

馬齒草

胡麻詩

そと屋引

梅花

築打

鮎

藜

苧

蟹

黒毛

蚊帳州

水鏡

水馬

蟻螂生

水鳥の巢

蓴

白毛

合歡の花

水鱧

水雞

蛇衣脱

鴨の浮巢

鳧の羹

白毛

あゝめ川

干鰓

常盤石を入

蝶の初夢

蛆

毛む

白毛

沖のまけ糸とこれをまき入るるとふ
白くろくろを白毛と云ふ

六月 林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節 一日 氷の貢 氷室 氷餅祝日

一夜酒 麻地酒 體粉酒 富士詣 一日 坊離

六月會 四日 祇園會 七日 精進

除時の系十五日にあり 御躰の御ト 十日 神祇友の交入 玉新に涉

津島祭 十四日 勢田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 咄博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日 鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 十六日

愛宕十日詣 廿四日 大坂塹祭 廿三日

賀茂水無月之能 廿日 橋立祭 廿五日 住吉御枝 廿日

唐崎祭 廿日 施米 東山北山西山のふりかきものたつたるも倍の

小蠅を以神 大坂のふりかきを以て神としりて祀る

大枝 廿日 後川

夏七ヶ月の候は、あつちの候
りふこの後、けつひ茶

形代カクシ川後、人の形を傳り、川
代カクシあり、災を去る、

撫物ナデモノ日
これをもつて、後、

夏神樂ナツカミガクら、をうらうら

三伏サンフツ 夏五の候、あつちの候、
候しと、帝も、備へ、

涼スズシ 月、涼し、

京四条の涼キョウシヤウノスズシ 七日ヨリ、門の、
十八日、

川社カハヂ 夏枝、川を、
社ヂと、

菅貫スガノリ 後之、
具出、

鎮火祭チンカサヒ 廿日、
火除除の、

雷鳴の陳カミナリノチン 雷を、
大お、

三伏サンフツ 夏五の候、あつちの候、
候しと、

座頭涼ザトウノスズシ 十九日、

紅の涼ベニノスズシ 十九日、

江戸兩國橋の涼エドウニクニノスズシ 廿日、

嘉定錢カチヤウゼン 十六日、

簞タタ 浮蘭、
脚馬抱竜、

扇アウ 五明、
扇す、

心太ココロヲ 太、

清水シメヅ 汲む、

猪の花イノハナ 紙に、

瓜ウリ 芸菜、

麻アサ 引、

瓜ウリ 芸菜、

茅の輪カヤノリン 廿日、

汗アせ 拭ひ、

土用干ツチヨウノカヒ 由拂、

井イ 井戸、

麻アサ 引、

瓜ウリ 芸菜、

瓜ウリ 芸菜、

嘉定錢カチヤウゼン 十六日、

泉イハ 殿、

土用干ツチヨウノカヒ 由拂、

井イ 井戸、

麻アサ 引、

瓜ウリ 芸菜、

瓜ウリ 芸菜、

瓜ウリ 芸菜、

瓜ウリ 芸菜、

瓜ウリ 芸菜、

夕顔

新うんちゅう

撫子の花

乙竹 ころちんの花

蓮の葉も夏

蓮

荷葉水芙蓉

荷の葉

白蓮

蓮の花

蓮の花

実飛ハ秋

百日紅

紅蓮

海松

荒和布

荒和布

射干

蝉

神

花

花

夏虫

蟻

蠟

蠟

蠟

蠟

神鳴

雷初雷

父立

白雨

蒜根

青瓢箪

六月

南瓜

花

花

江戸初鮭

六月十五日を福降月とす

夜繭賣

せご

大釜の夜魚あふれさるやうに縁の

沖膾

陸を越決の男魚の

料理

上州新絹

目野

そのお供

石尊

六月廿日相及大山不動

石尊若離

糸信の人本をりぬる

極暑

石尊大権現

綿の花

醬油造

炎天

あつき日

葛の花

納豆造

溽暑

その峰

六

二十三

菱の花

蘭と刈

菅と刈

藍と刈

白麻刈

蒲の穂

青蕃椒

菅造

奈良漬

竹の皮枝

昼顔の花

麒麟草

けいりふ菜

菊の尾花

日盛

日傘

温風

風薫

藿乱

葛水

水飯

麻頭巾

麻羽織

振舞水

水吐粉

香薷散

砂糖水

洗ひ飯

夏枯草

干飯

青鬼灯

鷹羽はくひとやぶ

林檎

赤草

蛸

茗荷の子

道明寺水

烏糲搗

杏

杏子

澤泻

早桃

洗鱸

洗鯉

煮冷

杏

河やね

風蘭

楊梅

海月取

金龜虫

雲雀鷹

鷺草

李

凌霄

眼皮

菱の花

蘭イと刈

菅スガと刈

藍アイと刈

白麻イ刈

蒲カハの穂ホ

青蕃椒トウカカシ

醬造シユウゾウ

奈良漬ナラヅケ

竹の皮タケノカ拔

昼顔ヒルガオの花

麒麟草キリンササ

けりうひ糸

扇アヒの尾花

日盛

日傘カサ

温風ユヅク

風薫カゼノカ

藿乱クワラン

葛水

水飯スイイ

麻頭巾

麻羽織ハフリ

振舞水ヒレマヒ

水仕粉

香薷散カウヂウサン

砂糖水

洗イひ飯

鯖釣

夏の別

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

とぬ秋

秋と待

秋

少皞帝 蓐收神

爽頼

旻天

白蔵

金商

七月

夷則律

立秋節

處暑中

孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會

硯洗 拙洗

七度食

星の手向

詩哥連非七夕會

二星彦星

とり妻

犬飼星

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

あまの川

銀河

銀浪

銀漢

あまの川

星合の濱

かぐつみの橋

雁鵲

の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠

乞巧針

七種の船

乞巧奠

乞巧針

七種の船

乞巧針

乞巧針

乞巧針

乞巧針

乞巧針

乞巧針

乞巧針

乞巧針

七箇の池 七箇の水に

飛鳥井家七夕の鞠 星を移し

池坊七夕の立花

荷前の使 天子より諸廟、勅使立し

文殊會 八日 六道参 九日

清水十日詣 日 楨買 ひま系のなり、初め更ぬけ飾

盂蘭盆 盆供 諸寺施餓鬼 一日より十五日迄

梶川葉 七夕の八分葉系に

御門跡簞花 まなづを他物あり

招待 門下葉よりいふ

迎の峰入 本山七月 當山八月

聖靈の迎鐘 日上

焰魔参 十六日

盆市 聖吳葎 聖吳竹

草壳 土器

手向物 草

根草

粟穂

燈籠

送火

題目

踊

空物 を

ひろひ火焼

靈祭

手向物 王棚 棚鉦

蓮花 蓮の葉

青柿 青梨 青桃 鼠尾草

瓜の馬 茄子の牛 うけをうめん 青櫃

鹿ヶ谷 大文字 愛宕 鳥井

松ヶ岡 妙法 舟岡 舟形

中元 七月 十五

扇置 扇

生身靈 父母抄りて人差遣の儀

盆の法 いり

經木流

三井寺女詣 七月

新綿の奏十六日 貢物

小結 奈角カ
形司と儀へ
踊ハレ 小町おどり
いせおどり

一葉 相の花あがり
あかあ

ゆい、あしは本萩。萩は多うにて根若くすうりむ咲くは本萩を
萩をて本萩よりま枝と重うて花
ゆいゆいなるあまゆいゆい花と云

一株に百中つ有萩とゆい
ゆいゆいすく文成聖にゆい
葎花ハ一日の榮るう
葎ハ一時の榮るう

相撲 斗争ひこころひはすあ
口々すすあ園を園派

かけあがり
おぼあがり
音取あがり
あがりあがり
あがりあがり
あがりあがり

萩 萩はあがり
あがりあがり
あがりあがり

筵萩 百元萩

葎 葎牛花
朝白花
葎花 げり

とんす
女節花

花とて 男良花がとてのむ
花とてあがり
花とてあがり

益母草 益母花
益母草 益母花
益母草 益母花

蘭 蘭花
蘭花 蘭花
蘭花 蘭花

翁草 翁草
翁草 翁草
翁草 翁草

蓮の実飛 蓮の葉と
蓮の葉と
蓮の葉と

秋の螢 螢
螢 螢
螢 螢

秋の螢 螢
螢 螢
螢 螢

田中

秋の胡蝶 コテフ てのふ を 信 ひ
秋津虫 アキツムシ こん か う やん ず

松虫 マツムシ くま か
虫撰 ムシゼン 虫 合 虫 簞

鳥屋出の鷹 トリヤデノトカ 鷹 の 山 別 初 を 羽

露 ツルシ あ る 露 お ち 夕 夕

早稻 コメ 初 秋 の も や 早 稻 穂 刈 り 終 る

初て涼 ハツテスズメ 今 秋 の 秋 餞 暑

冷酒 ヒヤサケ 青 蒿 麥 冷 麥

秋風 アキカゼ 初 秋 の 風

今秋の秋 イマアキノアキ 餞 暑

新涼 ニルリヤス

青蒿麥 アヲカマキ

冷麥 ヒヤマキ

秋の麦 アキノ麦 あ の 麦 常 山 の 花 西 瓜

木瓜の実 ボケ く の 実 鈍 豆 く さ 泥 の 虫 番 椒

桃の実 モモ の 実 犬 子 艸 小 車 の 花 柳 散

黄柳 ワウリウ 芭 蕉 茗 荷 の 花 桐

茶のむ チャ の む 薔 金 の 花 楸

毘麻 ヒマ 焼 米 や い ち ぢ む 蟻

えつと 垣 豆 す ま ふ 茶 花 火

えつと 垣 豆 す ま ふ 茶 花 火

槐花ツバキ

絲瓜スズメ

觀音草クワンソウ

茶調虫チャテウチュウ

夕貞別當ツキサダ 當虫トケムシ 紫鳶ムラサキトビ

八月

南呂律ナニョリツ 白露節ハロウセツ

秋分中

仲秋

壯月トウグヱツ

桂月ケイツキ

竹春

舂月ハルツキ

葉月ハツキ

鴈来月ガンライグヱツ

秋風月

月見月

八朔ハシツキ

繪行器エウキウキ 練雀レンセウ
當日禁中之式有

田面祝タメシイ

田実祝タミシイ

天中節テンチュウセツ

朝日アサヒ

秋社アキヤ

秋分近き成の日あり
五穀の神と祭る

堺天神祭サカイテンジンマツリ

三日

北野祭キタノマツリ 四日

白髭閑帳シラヒゲ 五日

八幡祭ヤチワンマツリ 十五日

放生會ハシヤウカイ 十五日

十六日

後かえ八幡ノチカエヤチワン

阿野津八幡祭アノツヤチワンマツリ 十五日

豊浦八幡祭トヨウラヤチワンマツリ 同上

鶴岡八幡祭ツルノカヤチワンマツリ

宇佐八幡祭ウサヤチワンマツリ 日

豊前

箱崎八幡祭ハコサキヤチワンマツリ 日

筑前

志賀八幡祭シガヤチワンマツリ 日

日

深川八幡祭フカガヤチワンマツリ 日

江戸

板鼻八幡祭イタハナヤチワンマツリ 日

上州

司召シボウ 十一日

系官の六位以上とて
業將とくふふしとす

菅大臣祭スガ

灰活杖乃祭ハイカクジョウノマツリ

いのかすのちのち掃蕪の社としてあり是れむらゝ形々の司
刺殺刑法とせしめいふるに刑とせしむるその死罪の

若し並名に
まつらふり

秋奠

おきまくり
せきこひ

三月、山

西院祭

北日

名月

十五夜 三五夜 名高き月 芋名月 ころも月 新月
良夜 夕月 此外月 異名月 部二悉

新月

駒牽

駒牽 駒牽 甲斐の駒牽 十七日 武蔵の駒牽 廿七日

龍田姫

秋の夕に非神祇
造化の非神祇

秋比宮

中宮の
ゆかり

いかととせを

鶴鴛ツル

後の彼岸

晩迄ハ

小鷹

小鷹狩 鷹トビの巢ネも色

尾鷲

小年オトシ

雀賊

鷹網

黄鷹

青鷹

モロカヘリ

おとされを

ひつり鷹

鷹打

おのこり 鶺鴒トビ鷹トビ 香カどいかに

鷹

鷹トビの食ケかりうまを ねしうひ 鷹トビの仗ツの文フ

巴鳥

巴鳥トビのこころ 四十雀 六十雀 同しあ 切すなり ぼんぼん

鶺鴒

鶺鴒トビの首カの糸イくさ 鶺鴒トビの首カの糸イくさ

鶺鴒

鶺鴒トビの首カの糸イくさ 鶺鴒トビの首カの糸イくさ

鶺鴒

鶺鴒トビの首カの糸イくさ

鶺鴒

鶺鴒トビの首カの糸イくさ

小鳥渡

小鳥渡トビの首カの糸イくさ 小鳥渡トビの首カの糸イくさ

鹿

鹿カの首カの糸イくさ 鹿カの首カの糸イくさ

鮭

鮭サケの首カの糸イくさ

小雛

小雛コヒナの首カの糸イくさ

澁貼落貼

下築くつれ築

くみ泥築

薄名のすき

薄紅葉薄の葉もき 燕燕ちりも秋なり

薄紅葉

蓼の錦やそ 葛くすのむ

蕨つこの細乃

花まよのちこ 紫苑

月草露艸 青花

花紫たん

藍の花あいの花

鴈来紅兼雞頭

茴香あじさい 花實えれのちそ

瓜あつと 錦文字

蒲葦あしやう 花

宇治うぢ 花園はなぞう 草花也 非正花

こまた 花

稻乳いぬち 稲いぬち 穂いぬち

擠いぬち

稻いぬち

稲刈いぬち 稲いぬち 穂いぬち 稲いぬち 穂いぬち

八束穂やちむく 新米あたら 秋の田あきのうら 田あきのうら 田あきのうら 田あきのうら

二百十日ふたひゃくじゅうにち 二百十日目

東呂子あづまろこ 東國あづま

案山子あなさん 木綿取きわた 芋いも

菜種なづな 牛房引うしむらひ 薯蕷堀いもほり

粟刈あわび

種瓢箪

牡丹の分根

柳川

種芍藥

芽萱チカハ

櫻川

種南瓜

種芍藥

鳳仙花ホウセンカ

種茄子

らりり

藥堀

曼陀羅華マンダラ

茵堇

茜堀

雞頭花

百部桂カクハ

鷄草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

やうりらじ

鬼灯

鴨上戸カモノウヘ

水犀の花

縷紅

若苜蓿

うすの心

通草

木芙蓉

朶

ようやく

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

柳下魚

太刀の魚

竹の春

初汐ハツレホ
八月の大汐

野分ノワケ
八月の大風

ほろあずき

花壇カイトン
草花クサハナ
非山花ヒサンハナ

粘キヌネ
衣イおきオキ衣イおきオキ衣イおきオキ
あアおオきキあアおオきキ

九月

無射フシヤ

寒露カンロ
節セツ
霜降シヤウキヤウ
中チュウ
季秋キシュウ

玄英ゲンエイ

季商キシヤウ

紅樹コウジュ

菊天キクテン

素秋ソシュウ

舞射マユヤ

残秋

未秋

玄月

晚秋

涼秋

菊月

陰彫

杪秋

あづの月

ぼろの月

のんき月

本深月

本末の秋

小田刈月

重陽ちゅうやうの宴えん

九日

重九菊且菊餅向

菊酒

重陽

栗且栗節句

為瓶 葉葉袋 落帽

酒

九日小袖

菊重衣

紅葉衣

紅葉の上器

後の離れ

かゝるる

豆袋まめぶくろとときき初秋

目録めいよははてて後ごとと

桂宮相撲

八日

泉涌寺舍利會

八日

不堪田の葵

七日にちのの後ごとと乃の 扱あじじのの所しよと

醜しう酬じゆ祭さい

九日

御香宮祭

九日

鞍馬祭

廿日

貴布祿祭

廿日

生い王わう祭さい

九日

四宮祭

九日

下鳥羽祭

十日

例幣

十一日

白川祭

十日

岩倉祭

十五日

栗田口祭

十日

了宮祭

十五日

岡崎祭

十六日

木幡祭

廿五日

鹿谷祭

廿四日

逆髮祭

廿四日

北山祭

廿六日

鳴瀧祭

廿八日

津村祭

廿七日

津国

天王寺一条會

十四日

太秦祭

廿日

小倉祭

十五日

八幡花の頭

廿日

天満箇疏馬

廿五日

大坂

街所柿 ハナハ柿も么似たり 和州巨柿も么平く此

栗 ハナハ柿も么似たり 和州巨柿も么平く此

早葺 初葺 樹より ますけ 葺より 玉物より

黄蜀葵 花 紙まき

思ひ糸 志ん糸 野山の錦 紅葉まき

錦繡の林 漆の野山 黄頰額の林

草花枯 木實 梅紅葉

和州巨柿も么平く此

菌 推の枝

漆取 芦の穂

野山の錦 紅葉まき

野山の色 うら枯

木實 梅紅葉

櫻紅葉

榊の紅葉 雀蛤成

枳の實 色うぬ松 金柑

棕の實 椽の實 柝子

椿の實 果李實 柝根

柳紅葉 漆紅葉 荔枝

菩提子 南天の實 仙蓼

たもれ実 榎の實 松子 老母草

密柑

金柑

柝子

柝根

荔枝

仙蓼

松子 老母草

こぶき

かよん

ぬんこ

霜踏鹿

新蕎麥

葉薑

狼獸と祭

柘榴

胡桃

露霜

夜寒

紅葉解

檀

榧

苑豆

漸寒

露寒

冷

うね

櫟

柞

桐油の實

露時雨

将寒

長夜

おを

榛

蕁

尾越の鴨

葛蕪玉

蔓梅嫌

新酒

番船

茶々興祭

住吉れ神送

熊栗れ柵撥

薩摩芋

晚稻

蒲萄酒

上方叙小村篠結の初着をつきては入はと

京奉の初着をひくつてはわき小興をくくはかりき

此日

何首烏

梅嫌

小瀑江鮎

衾

九月尽

暮秋

秋さる くれの秋 秋より後 仍秋

秋果る 秋の名結 秋がむ 冬と隣

冬 顛頊帝 玄冥 神 律 檀 上天 元英

羽音

十月 應鐘律 立冬 節 小雪 中 孟冬 折木

初冬 玄帝 泰心 上冬 始氷

方冬 新冬 小春 亥冬 早冬

かきれ月 玄陽の月 一しれ月

初お和月

神無月 伊弉册尊神ありましりし 陽をけ月後を神月と云ふ

と云せりしを用 今能作也まきの天候うりうのひ如きと云神ありし月

神集 神の旅 神送 一日 神の留主 神立風

宇津田 神 終 守 下元 十六日

玄楮の餅 初の亥の日 祭ひふと多しうららそとのさうらふ

初氷

寒菊

鴨鷹カキタカ

鰯ササガ

鰻

飯花カキハナ

蕪引

葛カズ

菊キク

鶯ウ

茶チ

冬牡丹フユボタン

大根引

總子ソウジ

足袋タビ

石落イシノコ

山茶花サザナギ

八手の花ヤツテ

納豆汁ナトウシユ

袴ハカマ

ありすけ

革羽織カワ

冬木の櫻

枇杷の花ビロウ

水漬ミヅヅケ

そよみのゑ

あがり

枯野カシノ

川音カハネの雲カクモ

液雨カキアメ入液カキ

鴨カモ

鶯ウ

鶯ウの衾カシマ思羽オモハ

風木枯葉の風

落葉オチワザ

霜シロ

初雪ハツユキ

水鳥ミヅトリ

鳥トリ

わらわら

茶木の葉

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

生海鼠 このりく

網代 このりく 氷魚 ひら

夜興引 ヨコノヒキ

妙音講 メウオン

諸国座頭の祭也十月十四日一郡の座頭仲間奇合官列と云一弁天妙音井

の尊像と云け種々供物と備順番一平家と云くつり通夜する

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中正

朔易

霜晨

氷壯

星紀

畧知

芸生

霜氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月 雪見月

朔旦冬至

十月朔日冬至るれり是十年のる

一陽佳节

十月無陽の月とて冬至より一陽來復

曆の奏

宮線と添

系を以て日の

履と献唐を姫より

相嘗祭

住吉大神 咒師 鴨 恩智 意富 葛城

新嘗祭

の初穂と天子より

豊元明の節會

中辰今年の新米神へ

神奉り天子も召れ臣

殿上の淵醉

長臺チヤウタイの試シ五節ゴセツの舞マヒと
御覽ミタマシせよ

童女ドウヤ御覽ミタマシ 卯日ウ清涼セイリョウ殿テン童女ドウヤ
と召メカれ御覽ミタマシ

鎮魂祭チンコンサイ 離魂リコンと

空也クヤヤキ忌イミ 十日ジュウニチ 鉢扣ハチカケ 佐サ後ゴと忌イミ

大師講オウシキョウ 廿四日ニヤクヨウニチ 報恩講ホウオンキョウ

向宗キョウソウ祖師ソウジ親シン鸞ラン上人ジョウジンの忌イミ日ニチ十二月ジュウニゲツ廿八日ニヤクハチニチ

の問ノト大法事ダイホフシあり、廿八日夜ニヤクハチニチノヨ

芝居シバ顔見世カノミヨ 朔日シツニチ

髪置カミヅキ 十五日ジュウゴニチ

袴着ハカマキ 同上

雪ユキ 六ツムツのむ 雪ユキのむ かつひく雪ユキ

雪ユキ 雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ

雪車ユキクルマ 雪ユキの上ノウヘと

棧ツツ 雪ユキ者モノ

綱貫ツナグサ 同上

雪垣ユキカキ 雪ユキ 雪ユキ 雪ユキ

雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ

雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ 雪ユキのむ

雷ライ 雪ユキ吹フク 氷ヒヤ 氷ヒヤ 氷ヒヤ

寒サムイ 寒サムイ 寒サムイ 寒サムイ 寒サムイ

氷ヒヤのむ 氷ヒヤのむ 氷ヒヤのむ 氷ヒヤのむ

氷柱ヒヤツチ 銀竹ギンタケ 寒サムイ 寒サムイ 寒サムイ

寒サムイのむ 寒サムイのむ 寒サムイのむ

寒サムイのむ 寒サムイのむ 寒サムイのむ

魚イサ 魚イサ 魚イサ 魚イサ 魚イサ

魚イサのむ 魚イサのむ 魚イサのむ

鮫サマ 鮫サマ 鮫サマ 鮫サマ 鮫サマ

鮫サマのむ 鮫サマのむ 鮫サマのむ

鮫サマのむ 鮫サマのむ 鮫サマのむ

酒サケ 酒サケ 酒サケ 酒サケ 酒サケ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

酒サケ 酒サケ 酒サケ 酒サケ 酒サケ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

酒サケのむ 酒サケのむ 酒サケのむ

新月

殘冬

三冬月

梅初月

春待月

乙子オコ孔朔日オコの子の

川浸餅朔日カハヒシロ臘八日ロウハツ

温槽粥ウツサウカユ臘八日ロウハツ

事始コトハジメ關東八八日関東八八日

御髮上ミカミ下午日下午日天子の御衣天子の御衣を焼くを焼く

着駄の政オケダノサマ

天智天皇御國忌テンチテウ三日

佛名ブツナ十九日十九日ヨリ

加法カホフ糸イト天テン守モリ糸イトの

師走シロヰ大寒の日大寒の日禁中禁中四方四方の内の内

牛ウシ童子トウシの像ノゾウ

土牛童子ツチウシトウシの像ノゾウ

立タツ陰陽師インヤウシとと立タツ

櫛梨シ乃ニ勸クワン盃サイ味アジのノ必カナラシ止トメ酒サケ

寂勝寺シヤクショウジ灌頂クワンテイ十五日

大徳寺ダイタクジ開山カイサン忌イミ廿三日

寒垢離カンコリ

寒念佛カンニブツ

多タ多タ多タ子コ

寒曝カンバウ

餅搗モチウチ

箕和田鯉ミノワタ

餅花モチバナ

黄鮒ワウブン

鵲巢カササギ

早梅ハヤウメ

早咲梅ハヤサキ

庭鳥ニハトリつつひひ

探梅タンバク

早咲椿ハヤサキ

寒造酒サムゾウサケ

臘梅ロウバイ

室咲梅ムロサキ

孟宗竹モウシュウタケ

早椿ハヤツバキ

室咲椿ムロサキ

寒竹サムタケ子コ

年忘トシワスレ

歳暮市

年取物買

煤攤

煤掃

古札納

星佛賣

年木糶

節季候

寶船賣

正月の飾物賣

曆孔末

弓矢羽子板賣買

節今立春の前日除夜上同

吉田の大狹節分

内侍所の御神樂節分之夜

厄厄ごと豆打

柶指イカダカサ鰯頭指

厄厄まじり

大原オホハラ雜候雑窮窮

追儺ウヰナ鬼鬼の聲のこゑ

衣配イセ小晦日コカクヒ大晦魂祭オホソコリマツリ

岡見オカミ大晦日の夜オホソコリマツリ大晦魂祭オホソコリマツリ

齋宮サイミヤ繪馬エウマ大晦日オホソコリの夜

明松アカマツといとあむ

和布川ワフガハ之神事カミマツリ長門国ナガトクニをこむ大明神オホミヤカミ

毎年大晦日の夜オホソコリ寅の夜トラノヨ寅の夜トラノヨ寅の夜トラノヨ

海ウミと四方ヨシエの屏風フスマを立たてて海ウミ底ソコ平ヒラ々々とと神カミ主ヌシたたままりり

奉ほうれれわわららぬぬ海ウミのノ面オモ汐シみみももて

荒海アラウミとあるよ

雜之詞

二季フタキの争マカ句コト、雜也 花紅ハナベニ葉ハ 寒暑カシムト結句

飛花ヒクハ落葉ラクエフト續句 又四時ヨシ不斷フツ物モノ、雜也

松竹マツタケの落葉ラクエフ 米 麥 豆 松の綠マツノキナ等

無名ムネナの虫ムシ鳴ナハ 小鳥コトリ 松マツ花ハ 桂カウラ実ミハ 村ムラ雨アメ

萍ハハ茂シハ 菖アヲ花ハ 藻モ花ハ 虹ニジ 蓬ヨモギ生ナ 柗カサキ 蛤カキ

淺芽アサキ原ハラ 荊ヒゲ 角ツノ銀ギン春ハル穗ホ秋アキ 菅スガ 真蔣マニモ 旱ヒヤリ電イナヅナ

豕シ雲クモ 清水シヅク 梅ウメ干カ 蓑ササ虫ムシ鳴ナ 梅ウメ漆シ 豕シ虫ムシ

鼻ハナ 鷺サギ 山鳥ヤマトリ 都鳥ミヤトリ 鰯ササギ 鯖サバ 鰹カツノ 鹽シホ物モノ

鳥トリ同ドウ 鷹タカの峙セマ 野鷹ノタカ 離鷹ハレタカ 離ハレ鵝ガ 鳴ナの羽ウエ風カゼ

梅ウメ壺ツバ 梨カシ壺ツバ 桐キナ壺ツバ 藤フジ壺ツバ 鴨カモ香ク 舞マヒ扇アヒ 礼レイ扇アヒ

槁カウ栗リ 軍イクサ配ツ團ダン 戸ドの鳴ナ子コ 蛭ヒル同ドウ 鼯ヒツ 布ヌ

布ヌ曝ササ 右大槩ミナタマシ記シ之余ノシノ準タマシ可タマシ知タマシ而シテ已ル

追加

池上千部 長栄山本門寺 毎年三月十九日ヨリ 廿八日マテ

九品佛千部 武州世田谷領奥科 九品山浄真寺 毎年四月 三日ヨリ十日

海苔日待 海苔之節の内二日予川浦へ海苔あひしりくよふ日 ありけし時系川中日待とももる是と海苔日待ともふ

○天象 月日星天くろりて二句去 二句去く二句くとも捨

天 大圓ダイエン 碧落ヒヤラク 塵空チンクウ 半天ハクテン 月ツキ 異名イナナ 月ツキ 季キ 出デ

日ヒ 金鳥キンウ 暈ウン 火輪カリン 靈臺レイダイ 星ホシ 北斗ホクテイ 世辰セチン 大自星ダイジホシ 初星ハツホシ 流星リウセイ 南斗ナンテイ 斗柄テイヘイ 旋風星センフウセイ 銀星ギンセイ

七曜シチウ 二十八宿ニハチハチヤク 牽牛ケンウ 織女オリメ 異名イナナ 七々の所シチカノトコロ 委ウチ 出すデス 各星カクセイ 之分ノマキ 也ヤ 日蝕ニチショク 月蝕ツキショク 天川テンケン

銀河ギンガ 銀浪ギンナミ 七々の時シチカノトキ 水辺ミヅノヘ ありけし我ワガ 又名イタナヘ 所トコロ の時トキ 水辺ミヅノヘ に成ナリ 雜シラカ 七々シチカ と兼トモ 外ソト の天象テンゾウ 河内国カワチノクニ に天狼テンラウ と云イハレ 名ナ 所トコロ あり 銀河ギンガ 七々シチカ の面オモテ

○聳物ソウモノ ぶらりくをウラリクヲ 牙キバ に二句去ニクウキ 三句つサンクツ く

雲クモ 霞カスミ 虹ニジ 運氣ウチキ 蜃氣樓シンキロウ 電デン 稲妻イナヅメ 夜分ヤフ

遊糸ユウシ 陽炎ヤウエン 系ケイ 於オ 月ツキ の暈ウン 富士フジ の烟ケリ 淺間アサマ の煙ケリ

松竹柳草木雨等の烟 霧ハ聳物降物兩用也

○降物ふるりくと手に三句去二句

雨アメ 雪ユキ 霜シロホ 時雨ジメ 吹雪フキユキ 露ツキ 雲クモ 霧キリ

白雨シラアメ 雪ユキ

○神祇三句去三句

伊勢太神宮日本平余州 宮ヤ 社壇ヤシ 遷宮ヒシ 三寸ミサ

長官ナガカン 社頭ヤシ 社ヤシ 祭礼サハヒ 洗米ヒライ 御師ミヤノシ 拜殿イハヒ

祝言イハヒ 祀イハヒ 散米シロメ 神主カミ 瑞垣ミツカキ 斗帳イトナカ 御供ミカケ

柵サシ 祢宜ニギ 玉垣タマカキ 神カミ 初穂ハツホ 社人ヤシ 杖ツエ

千木チギ 湯立ユタテ 神輿カミコ 乙女ヲトメ 鯉木コイホキ 幣ヘイ 氏神ウヂカミ

神馬カミウマ 神子カミコ 鳥居トリイ 鎮守チシヌ 贄ネ 繪馬エウマ 欄カド

巫ホウ 尊ミコト 祖ソト 小忌衣コミコモ 神樂カクラ 命ミコト

木綿ユウワタ 袴ハカマ 手洗テラシ 膳ヘシ 七五三ユウシチ 鷄羽トリハ 膏カウ

齊院イサノ 賀茂カモ 齊イサ 齋イサ 忌竹イミタケ 指ササ 夫大臣ウヂノシ

神宿カミヤド 川カハ 杖ツエ 神カミ 枝川エダカハ 菅貫スガツク 形代カタヨリ 川カハ 首カウ

住スミ 川カハ 杖ツエ 神カミ 枝川エダカハ 菅貫スガツク 形代カタヨリ 川カハ 首カウ

神樂

大前張 阿短女

小前張 榊物哥

里神祭

起請

誓紙 袈文

おちろく

舟後

かろく

神々鋪

伊勢講

太々講 祭宮

非神祇

惠方

年徳

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

○

釋教

三句去三句はく 一句うくも捨る

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

諸僧法衣

諸の宦名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔和讃

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五鉢

衣

眠蔵

能化

論義

獨鈷

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪藏

出家

鉦

觀念

燕尾

行堂

往

百七

帝統天 辨才天 多聞天 持國天 增長天

廣目天 聖天 大黒天 毘沙門天 摩利支天

如此天と呼ぶ神 山伏 燕尾 金剛杖 槍笠 檜杖

立願 通夜 兩皮形箱 月待 日待 庚申待

休仏... 兩部

戀 起 妹許 吝氣 玉章 惚婦 詭

戀之詞 但吾所の... 吾を愛する... 吾を愛する... 吾を愛する...

女房 二女道 妹脊 娘情 媒 薄情 形身

姿鏡 仇 娘 契 内儀 二女心 紅脂 嫁

恨 妻 腰元 門立 口紅 妬 妾 咒

花娘 難面 爪紅 孕 占 女 花智 待佗

白粉 誓文 訛 入智 袖引 化粧 思

縁 忍 密夫 伊達 新枕 佛 被 鷹

傾城 心中 長枕 幃 禿 戲 遊女 神祈

手枕

耻

明

嬖

戲女

下焦

枕香

嬖

白人

十話

枕繪

踊子

山合宿

口説

振袖

野郎

口舌

流目

色狂

袖留

陰間

口吸

姉

水揚

飛子

頬指

指櫛

尻目

舞子

水祝

離別

金剛

忘ら

物怪

亡八

辻占

懐妊

執事

妓有

灰占

惡阻

花車

坊主落子

私語

若衆

牽頭

鶯言

目元の塩

念者

辻君

立名

前髪

前より

惣嫁

睦言

婀娜

意慕

近は

夜這

指切

腕突

入癪

身を焦

揚屋

髪切

股突

密通

若後家

後添

湯女

白拍子

結ぶの神

女衞

千束の文

諸國傾城町の名

人目の関

人目忍ふ

手をとめる

目くらめ

尻は

尻は

尻は

鳥辺野

仇野

劔の山

三途川

魂結ひ

灰人

灰寄

葬頭河原

白骨

骷髏

冥途

龕極樂

中陰

忌中

周忌

幽霊

人魂

追善

追悼

○述懐之詞

於此を二つにす

寡白髮

三輪組

おちぬ糸

貧

浪人

眉の霜

佗

病人

苦

継子

苔衣

乞食

世と捨

非述懐詞

愚

賤

山賤

座頭

瞽女

柴戸

尉

翁

草庵

釣翁

賣炭翁

○人倫之詞

二つを二つにす

祖父

父

兄

姉

我

息子

娘

婿

祖母

母

弟

妹

妻

子

孫

女房

伯父

甥

舅夫 繼 孝 獨 從弟 伯母 姪 姑

聖賢の名 實名 俗名 僧法師の名

傾城白拍子野郎の名 此亦準一とある人

非人倫之詞

帝 皇女 本院 新院 仙洞 太子 宮

親王 門跡 大君 仙人 人間 一門 凡夫

眷屬 二人 三人 大勢 雜兵 衆生 典藥

外科 本道 老若 鍼醫 入道 百性 旦那

敵 加 俗 不仁 亞龍 恩同志 代官

目代 民 目付 留主居 奉行 身 某 私

地頭 門主 橋守 門守 花守 山姫 寒山

拾得 僧坊の官名 釈祖師の名 俗官名

苗字 守の字 師 醫師 佛師 繪師 鐫物師 是等也

者 如著 使者 醫者 佛者 是等也 此亦準一とある人

内裡 皇居 御所 市場 軍場 鞠場 神社 佛閣

非居所 千里 邊土 市場 軍場 鞠場 等也

○山類之詞 一白左二白右

山 峯 嶽 岨 岫 谷 峠 高根 坂

尾上 九折 山姥 山姫 瀧 山関 築坂 築坂 築坂

舊城 久米の橋

山類用 山は此に於て

岡 嶋 岨 泊瀬 水邊 関

非山類詞

吉野 島國 瀧川 杉人 淡路嶋 三島

越路 仙人 山賤 瀧津川 氷室 山麩

山鳥 山桃 龍田川 山梨 蓬が杉

余ハ唯一ある人

○衣服之詞 二白左三白右

裳コソ 小袖コソ 衣裳イサ 繡絆シズメ 白無垢シラカ 被カキ 袴ハカマ

襦ジュ 襦ジュ 帷子カサヒラ 紙子カミコ 衽セ 襟エリ 褸シ 裾スそ 布子フコ

單物ヒトモノ 袖口スソノ 浴衣ユカ 衣紋エモン 産着ウツキ 羽織ハオリ 褌フク

此亦不断等句の物皆衣類

非衣類詞

袈龍カヲ 直垂シタ 狩衣カキ 素襖スアタ 襦袢ジュハン 奴袴ヌハカマ 袍ホ

大口袴オウチハカマ 欄ラン 小忌衣コノセ 白弦シラハ 緋袴ヒハカマ 縵袴マンハカマ

纏マキ 宿直衣ヤクシチ 衾カキ 淨衣ジヨウ 如裳カサ 衾カキ 衾カキ 帶オビ

直衣シタ 上下カミシモ 肩衣カノキ 絆切ハカマキ 水旱ミヅ 葛袴カサハカマ 水衣ミヅ

十德ジュツク 篠掛スノカ 直襪シラ 居士衣コノセ 立付タテツキ 襟卷エリマキ

掲布カガヒ 帽子カッパ 被初カキハジメ 野袴ノハカマ 紙羽カミ 脚絆カシマ 股引ムネヒ

頭巾カウチ 足袋タビ 三尺手拭サンシクテ 法被ホウビ 褌フク 褌フク

道服ミチ 羽衣ハネ 裙袴スノハカマ 禪ゼン 緇帶シヤウ 藤衣フジ 喪服モウフク

禪ゼン 素鞆ソウ 喪服モウフク 右宦服ウヘ 祭服サイ 僧衣ソウ 喪服モウフク 禮服レイ 喪服モウフク

五十一

生る用せらる物皆非衣類

○水邊之詞

三句を二句に併

蛇籠	筏	津	淀	海
水屑	樋	浪	瀨	浦
濱菰	窺	泡	沖	濱
海草	流	潮	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井戸	沼	瀬	池
松島	海士	村若	洲	澤
	漁火	瀧	浮木	堤
		島	淵	流木
		橋	崎	湊

葦蒲 貝類 鉤具 魚の名 水鳥の名
 漁の名 船の道具 辛崎の三松 蓮 萍藻

非水邊詞

天の浮橋 夢の浮橋 白川の関 月の出
 室の八島 難波寺 泪の淵 軒の玉水
 鵲の橋 布曝 志賀の松 おもむ川 三瀬川
 憲の海 蓮の上 硯契 硯水 天水 岩船

氷柱 宮屋 干魚 干貝 苗代 田 鹽

○夜分之詞 この夜のこともほしく
一夜のこともほしく

月 星 曙 宵 暗 簾 蚊 鼠 寐言

寐 枕 眞 炬 時 晚 銀河 明星 日侍

七夕 横雲 稻妻 龍灯 鶉川 行燈 初雞

胡荻 寐鳥 燈籠 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺

蠟燭 短檠 手燭 假寐 居眠 夜着 燈明

送火 衣々 深更 化物 幽霊 夜発 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛士の焼火

星とこころ 出入 住吉の市 星取 夜所

の時非 追儺 除夜 大晦日

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月 出 芦火

今日の月 朝の月 明もあれ 常燈 昼の月

叢の月 夢現 夢幻 夕月夜 有明入 残月

余ハこれヲ唯々考ス

○食類之詞

食物ト飲物ト品替りて二句若ニ有テハク
一句ニモ替リテ

○旅躰之詞

門出カドデ 錢別ゼンベツ 乘掛チヨウカケ 輕尻ケイシ 蒲團張ハシラシ 馱賃トシ
木賃キチン 跡附アトヅケ 木陳キチン 旅籠屋リョウロウヤ 出女デメ 馱荷トシ

海好 宿取 川留

○生類之詞

虫ト鳥チリ 鳥ト鳥チリ 獸ト鳥チリ 獸ト鳥チリ
同生類ニ句若
ニ句若クニ句若モ替リ
同生類ニ句若
ニ句若クニ句若モ替リ

○植物之詞

木ト木 草ト草 竹ト木
同生類ニ句若
ニ句若クニ句若モ替リ
同生類ニ句若
ニ句若クニ句若モ替リ

不高不低植物

木ノ下ノ草ノ類ノ所ナリ

藤 萩 欒 欒 茨 荊 葛 葡萄 牡丹

枸杞 山吹 卯花 五加木

○書牀之詞 二句者三句皆ノ次

文字の嚙 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯

墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀

手紙 文 玉章

○火射之詞 二句者三句皆ノ次

焔 煤 灯 燼 巨燧 火鉢 炭 竈等也

余ハ准ノ者ズ

○風射之詞 二句者三句皆ノ次

風鈴 扇 團 吹 芦の声

余ヲ唯ノ者ズ

○病射之詞 二句者三句皆ノ次

藥 灸 鍼 入湯 按摩 醫者等也

余ハ准一志ス

○器財キカニ家初付てもうろくか陰と史とも
不あり打てるも日記

武具ブグニ武具 家具カクニ家具 鏡物カクニ鏡物 硯スニ墨 文臺ス

武具ブグニ筆 棋盤ハシラ 庵丁アチ
おろろして六角ても
打破ても若くハハ

○支躰シタニ支拵付てもうろくハハ
ととも不あり打てるも日記

顏ハニ首 目 鼻 口 耳 腮
おろろ打二句去二句

顏ハニ手 足 爪 腹 脊 中

○名所ナトニ名正有てもうろくハハ
おろろ打二句去二句

同ドニ國 同ドニ所 須磨スモニ象海

伊勢イセニ陸奥 陸奥リウオウニ陸奥
おろろ打二句去二句

○字去之部 同守の事也

色イロト五三 色イロト五三 色イロト五三
色イロト五三 色イロト五三 色イロト五三

如此訓音コトわろくハハ皆二句去

餘レ小レ廻レ來レ打レ成レ請レ

當レ込レ間レ○浦レ猶レ次レ

④事レ⑦振レ遣レ野レ①双レ⑤子レ音レ

里レ有レ吹レ機レ上レ②虫レ⑩中レ

朱レ明レ深レ山レ登レ無レ鳴レ

去レ淺レ③心レ④殘レ⑥内レ鳴レ

指レ跡レ⑤待レ吳レ上レ無レ

下レ逢レ⑥聲レ又レ雲レ憂レ波レ

小レ合レ木レ迄レ草レ請レ並レ

更レ相レ

六一四

②袖レ掛レ忘レ置レ止レ④外レ①今レ

方レ分レ追レ留レ程レ幾レ

外レ兼レ渡レ多レ通レ⑧邊レ此レ

其レ飯レ割レ音レ外レ邊レ入レ

初レ⑨吉レ侘レ小レ取レ經レ⑩口レ

添レ⑩夜レ④哉レ⑤落レ解レ鳥レ①時レ

②遣レ着レ付レ為レ⑤路レ牙レ早レ

就レ⑤替レ折レ⑦近レ遠レ晴レ

⑦我レ⑧共レ果レ

⑧張レ

新

三

花靴 花魁 糸花 花の白 花衣 作花

紙花 花栄 花ののぎ 花の縁 花乃袖

花の袂 花真壺 紋の花 繪の花 詞の花

花の姿 染物の花 織物の花 花むす傳の敷ふ袂
又襟のむすり

此は植物に二句の花と云ふ皆春上ハ花也
下ハ花也

花皿 正花也 櫛皿の時ハ 非正花也時ハの和
りりうとうり 花筵花
折去

織る縷なくハ掛物に二句去
むのたぬり種うむりの言去

花の匂花の匂ハ
花の匂ハ 花の散花の散ハ
花の散ハ

花に付尚同道具不付人たふ
中花と有
中ハ花と付
中ハ也

花に吉其付魚う以
花に付
花に付

付付ハ花
付ハ花 花に様七句去
花に様

花は名所結句 折去折去
折去

花は月結句百負
花は月結句 化季の花百負
化季の花 心花心花
心花

心花心花
心花

花王 多分 牡丹

花の富貴 フクイ 同上

花の隠逸 イノト 菊

花の兄 トコ 梅

花の君子 クニ 蓮

花の宰相 ササキ 紫菜

六ツの花 ヒキ 雪

勝 マカ まる花 ウサギ 海棠

夕 ユフ 花 ハナ 夕 ユフ 鳥

三ツの花 ヒキ 霜

未摘 ヒキ 花 ハナ 紅花

花 ハナ の ハナ 真 マコト 紫

四ツの花 ヒキ 紫陽草 アザミ 花 ハナ ぐ

紅 ベニ の ハナ 異 イヘ 色 イロ

いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

花 ハナ いろは イロハ 茶 チ を ヲ 余 ヨリ 於 コト 茶 チ

そくわん きんぐんのお

そくわん 二才二面を

たまゆ 紙をそくわん

たまゆ のあそびあり

たまゆ 薦のむく

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

み 二句を

おひくく 一匹むの 楽ふ極 おひす 一かきあき

おひて 一うのめく おひと 一わふのく

おどろく 一ほろ おひとく 一あきんす

おほ 一かきま おひ 一あき

おや 一林井の おひ 一あき

おひ 一あき おひ 一あき

おひ 一あき おひ 一あき

う 二句 う 二句 我 一 誰 一 が 一 ふ 一 極 一 か 一 り 一 く 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

か 一 ぞ 一 くれ 一 時 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

か 一 ぞ 一 う 一 け 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

か 一 ぞ 一 ち 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

よ 一 す 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

よ 一 ち 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

よ 一 ち 一 一 一 種 一 一 一 種 一 一 一 種 一

やし七七向大あり八おやうぬ日あり

やよし云てふも二 なれりしり翁

やまあひの袖 一皆生ハ藤

やまよとちあるは 一葉のたのりき

浦 一乃美 あり八

まゝ死 一死にき 早 一古

中 一也 祢子き 眉 一眉 くのふき

浦らうと 一たあ人の

浦 一たあ人の 浦 一たあ人の

ま死り 一太和の 卷 一而

中 一十寸の襦 中 一十寸の襦

中 一十寸の襦 中 一十寸の襦

中 一十寸の襦 中 一十寸の襦

中 一十寸の襦 中 一十寸の襦

け 一助後ト也 け 一助後ト也

考 一心得き 心 一心得き

下 二句 花 一花 之 一之 け 一之 ぬ 一之 ぬ 一之 ぬ 一之

ふ 一花の平 花 一花 之 一之 け 一之 ぬ 一之 ぬ 一之 ぬ 一之

ゆ 一伍倍子水 ゆ 一伍倍子水

ゆ 一伍倍子水 ゆ 一伍倍子水

せ 二音 せり 二す 一と 二音 せか 一たの 二音

す 一ん 七音 去 為り 八音 去 すすり 四音

する 二音 せ 一と せ 一音 ず 二音 去 ぶ の ぬ 五音

す 一と 一音 何 五音 為り 八音 去 すす 二音 何 五音

す 一し 一音 何 五音 すす 二音 何 五音 七音 去

すす 五音 すす 五音 ぬ 五音 何 五音 口 何

一文字 七音 去 訓音 替り 五音 去 単編 獨本 七音

二文字 面 去 訓音 替り 七音 去 三の字 三 十の字 四

二の字 十 四音 百子 万 各 何 去 訓音 替り 面 去

春 字 五 季 五 五音 去 四季 各 何 四音

意の字 四 何 五 非 意 五 何 六 面 去

月 七 五音 去 月 次 の 月 の 字 三 何 去

花 四 何 五 茶 の 字 六 二 何 去 踏 了 花 五 音 茶 五 音 踏 五 音

四季

貞 富

昔年兼此字都之有可也
眼上先一泉源一の形
為望亦以枕七塗う考和家
如生之也望のうも香の和

二物

貞 逸

里膝一山根小紅紫袴
御家之香下大六袋目
月の家一巻の巻物

文 佐

の此を六巻巻物之

藁句如字の字

此中七のより高き
是花是花一七家只以
はははははははははは
んんんんんんんんんん
いふいふいふいふいふ
孝行 孝行 孝行 孝行 孝行

早の好 ふんまぬ
あふれぬ

我の部

苗代のまにひらく、男小雨上州子日上州ひち撥れこや一掌乙牛

めゆくと本魚の身さやも米沢芳雨全初雪全いあく酒全に飲全すま全一全芦遊全

まれ公扇全も異全つくる全鱗全人の状全をとりて全や全か果全湖遊全

若橋全八重全く船全の身全を全か全全全一全雲全橋全の全ま全れ全や全あ全れ全と全桐直全

を合も日全遠全思全る全望全と全ゆ全其山全ま全を全や全弁全に全曲全ぬ全林全之全必全狐遊全

由全に全勝全も全此全の全異全と全け全藤里全福全を全や全縁全く全烟全を全勝全八幡山全外全珊木全

ま全く全く全富全も全勝全止全と全も全其木全系全作全や全秋全の全ま全れ全の全な全所全船全ト全

やの部

上州子蘭

初水とほて四全る全け全る全る全吏山全形全の全や全その全目全の全秋全す全文竹全

霧全の全葉全の全ま全は全り全ち全ろ全く全時全雨全也全芦雲全一全八全や全二全八全ふ全ま全ん全む全す全竹全遊全

湯全流全る全度全り全く全む全の全歩全の全鳴全や全方全国全あ全う全も全暮全の全な全ま全と全橋全川全松全巨全

ま全は全く全流全を全ま全す全く全ま全流全る全あ全や全本全町全筋全の全や全秋全風全吉全之全

子全と全ま全の全園全を全来全て全も全踊全る全五全出全ま全と全森全敷全く全て全井全戸全の全橋全遊全遊全

湯全石全も全仕全の全後全の全着全登全り全巴全山全夕全ま全や全わ全す全く全せ全り全牛全の全尻全合全

魚全舟全の全斤全枕全照全り全ま全つ全れ全か全可全邑全秋全を全に全お全つ全る全あ全や全首全若全泉全山全

ふ全ゆ全く全一寸全ま全く全ふ全柳全う全ね全柳全風全さ全く全ら全む全も全撰全拾全の全後全る全る全十全聖全

意海日影金也也も早も新銀浦

傘の宮主人や持て去るや透竹

二ツツツ鹿碑さるるも更齒

心よりゆきりも花や羽振ち魯州

一群の鳥おわりりのまるか九草

名月や花枝の影おぼゆる草葉

雪の積風火のやも暮れ杉雪

茸竹や似合ぬ花の鏡まう芳州

扇のたさきとけり八様も扇風

蒲心や沢辺おぼゆる藤のる永州

風きて目よりくの花露や松露

文彩やゆるる花の影も芳齋州

花葉はて花葉とけり花の露

情ふかき花おぼゆる花のる東州

雨くく花を流るる花の露

松古や花の園おぼゆる花のる羊州

柳の老枝おぼゆる花の露

田葉 菊畑や子持のまを花の露

毒猫の首も花の成りも盛山

草花や老とまを花の露

多くは花を愛するも花の成りも

時交 葉のむや花の成りも

おぼゆる花の成りも花の成りも

胡鏡 涼く花の成りも花の成りも

あまの朝も花の成りも花の成りも

亭松 煙花の影おぼゆる花の成りも

あまの朝も花の成りも花の成りも

好時 花の成りも花の成りも

あまの朝も花の成りも花の成りも

山童 花の成りも花の成りも

花川の曲も花の成りも花の成りも

新石 花の成りも花の成りも

澄全のまへ色全抄全とをうける用和

早全うのなま全さ全むの全物全東川

降全極全瑞全之全扇全が全と全深全く全南全芦全碩

わ全る全内全沖全火全爐全ハ全な全る全友全至

才全と全少全と全ら全世全産全き全存全代全文全至

汝全先全の全高全く全あ全る全お全も全く全貞全宿

木全村全の全事全色全高全き全木全秀全木

面全の全日全也全特全の全と全秋全機全竿全交全兔

折全節全の全元全舟全と全又全月全を全風全車

振全袖全木全櫛全も全程全や全土全用全下全其全月

初全り全を全や全る全も全も全音全や全音全魂全其全桃

る全た全風全の全音全や全お全り全舟全左全木

並全藤全や全人全の全命全も全お全の全内全杜全平

る全に全程全の全世全の全物全や全あ全る全菊全米全甫

流全と全雲全家全子全舟全き全初全終全貞全雨

む全か全り全鳥全い全は全ま全き全山全陽全平全湖

夕全方全と全字全を全名全色全と全存全菊全藤全巴

在全そ全の全統全波全六全低全杜全亭全一全之

む全こ全く全言全を全承全れ全白全言全を全承全れ全竹全志

松全影全も全も全り全と全若全深全の全声全艶全山

秋全津全一全嵐全の全み全不全枕全も全也全笠全雨

引全持全の全豆全既全深全一全和全か全れ全浦全重全友

お全も全ぬ全の全枕全は全水全車全竹全雨

之形

そ全ま全は全夜全半全の全三全に全深全也全芳全雲

揮全干全に全亦全ふ全ほ全し全後全の全月全松全庭

お全味全呼全の全木全も全又全下全朝全云全橘全平

お全味全呼全の全木全も全又全下全朝全云全橘全平

お全味全呼全の全木全も全又全下全朝全云全橘全平

お全味全呼全の全木全も全又全下全朝全云全橘全平

お全味全呼全の全木全も全又全下全朝全云全橘全平

かきおふ心切心 枝 棟 東里 種を色 名の日に果るうりやう 深天 松岸

朝毎の初むも凍 ちち水 雞歌 栂の風割に恨たよりきや 三宅 舎牛

菅原芳治有 藪の後友之 池計堂 を閉て扇の風もなき尾 芦夕

風すいさくさく 一編の表 芦魚 長久ら あり

あり 尻責み山をたけり月なき 桃井氏 空澄菴

新田ふ久と竹さうをんを 子園 湖雲 初ありきと赤はるまの月 万壺

ゆ舟の帆 渡りたり 横を 吉井 復児 一所の雨にそそぐ 子園 扇志

あり あり 香すえと雪あもる 阿州 嵐 賦

さうとあそり 子園 山 嶽

乃徳まのびと 吉井 和周 穴穴十箇と 高井 秋の月 湖青

味 吉井 松月

い 吉井 早合れ 米沢 習谷

素 八幡山 秀竹

い 吉井 吹て 吉井 松石

あ 小膳 秋空

あ 吉井 幸成 小膳 素

萬葉集とて名門名の新芳柳

御れももよる情以村時る有隣八幡山唯かみかき自国で築地改東宇

抽の華もよる小萩時原翠高甘蕨の依不ゆる老沙千原乙山

是朝の怪娘とて此下ゆき呼雲

雲笠と舟中おれあやみ里鶴深沢己うらとほりて鳴きさし延山

下月空らるる雲の香煙籠笠考吉井海うらるる雲の香煙籠笠考

二の香煙籠笠考吉井糸柳

賦をわらじは花の面山高甘賦

そし消もまよとて秋の香三宿而醒高甘秋の香あり物と種ありく當屋

今迄の何故柳とて壽保信前中の香あり物と種ありく當屋

如字おめでとあるさ也

早ぬ

家来の合ぬらんしもかきんぐと負雨大今ままぬと自は流るる古中延山

菊高さ菊も都を九年し前芦魚黒熊海平も和味ありぬ立甲竹倭

おれとまてはせし海とておの下過改下如

炭竈のそより南とて初ま秋豊東米沢舞も笑ふ場入の後の初伐柯

玉河とて又行旅いつか華河月高甘

と

の

糸柳

紙障のまつをる此初しつれ竹文

空物ハ約らせくこし多文巳女紀遊

鴉の熱と有のたつまける里水馬庭

やまの山を今より本も空川熊谷嘘夕

只るの木庭のゆきあま乃山至今

まじあをうまをれ初時而貞宿アチ阿

今あうし風言ハ
夫を志すハ一字也

乃舟人送れ横風小館の林其朝

万抄の乃ゆふ舟

この舟の乃ゆきまると

日次すまると

蓬葉や

人のうらまぬ

柿の棧

貞橘

六時す南のゆきま

しつて蕭堂わうろす

秋和のあうらふ

跡はしつ火權れ

不慮くま

友多れや

夢中巻

笠翁

己を舟しむ月の六

葉葉とまると

ゆきまゆり

橘の子れ

意ゆる親す

全

露を

夢中巻

四季

松浦

形の灯乃入をきゆく一松月杜川

一柳八月ももふゆの流るる

後松葉のくは血筋の出来丸

そらうも松油法匠のそ

全

松の空のあま晴那山吳周

徳奥の橋も松の松乃

全

こみせて葉も流るる徳のま一徳

推のまや松葉の流れて流る

風の小松葉の佃子松乃音

松の空のくは血筋の出来丸

全

石松松乃上松の松乃貞笠

こみせて葉も流るる徳のま

上州若井

そらや畔のまゆく月を看
并にさゆわねとそら

全

まむか流るる松乃松乃貞國

子と抱て人の松や門のま

松の空のくは血筋の出来丸

そらや畔のまゆく月を看

全

松の空のくは血筋の出来丸
傘傍りく松乃松乃貞國

全

まむか流るる松乃松乃貞國

子と抱て人の松や門のま

松の空のくは血筋の出来丸

そらや畔のまゆく月を看

全

口明て恰成る汝下りの船 芦邑 中の人も有り花を干酒 芦管

惟子の夜舟に舟をあるは 惟子とてや懐のやまに花

去舟をむくく物くう書椒 因をそに移くを 後の月

汝きて懐子のを 空花 舟の着自由にも合流川

全

伊勢あり七十の御舟 貞川

舟幅水ありやくをれ古往 舟幅の着きたる色 初橋 貞陸

初橋とておもくは魚高 一渡りの秋やせうくは

上州下州

下州

全

道方の麻も方やまね 舟の着きたる色 初橋 貞陸

全

まふや物てうくハ麻の着 貞隣

園のたれ地へ酒をを 杜福

林の着きたる色もまねてんが

まねてんがもつもの時ふか

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

全

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

全

上州下州

舟道と女の着きたる色 舟道と女の着きたる色

全

下州

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

白くして使ひて蓮の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

全

橘の油を以て田植の

橘の油を以て田植の

虫のよに木葉落し月夜
香のよに懐心物よのよ一合

三物

香のよに木葉落し月夜
香のよに懐心物よのよ一合

拾花甫

人のよに月八夜よのよ

よ長代所産よのよ徳味

全

秋の望と望の別色
初雪の雪のよの一合

三物

秋の望と望の別色
初雪の雪のよの一合

一社堂

秋の望と望の別色
初雪の雪のよの一合

秋の望と望の別色
初雪の雪のよの一合

全

波瀾まよとよと夜乃に竹波光

孫酒八癖ふ散て深し

水園の月を志子のまを常

全

かひれに命を任けくふま畑 桐船

上雨倉山

坊の縁のまを縁と頼枝

水園のよに常八のよに竹波光

全

呵られの縁とまを常の月貞竹

孫酒の縁の縁と深さ

一瓶のよに常八のよに竹波光

全

流木のよに常八のよに竹波光

雨倉山

坊の縁のよに常八のよに竹波光

水園のよに常八のよに竹波光

全

あつらにたつた鳥の事 有佐

津陽院も必讀なり 貞屋

昔の約束も約束の聖 執筆

あつてうらまを信の聖 貞山

世も空に花の一人 風志

あつたの事と秋の事 有佐

かたさう白の酒をさす 常仙

あつた物さうと物さ 貞屋

鈴鈴しく村の子うさ 貞国

凡呂依にむきとむねん 芦管

笑こけ非難を下され 友里

振向と古聖後へ紙巻 貞国

女のまね踊の移り 芦邑

よ枝と古聖とさす 友里

ゆ祈の尻に牛依る 芦管

その時とたまたまの 芦邑

柏うすさかしくこの 貞山

川魚の舟をさしとさす 風志

百斗さうはの種物 有佐

ゆゆいも非もさす 常仙

松が花をたれり 貞屋

あつた花をたれり 貞山

あつたの事さうと 風志

柳もあつたさす 貞国

母叔の丸の輪にさす 芦管

窓をさすさとさす 友里

村のさすさすのさす 貞国

初まはにさす乃道 芦邑

月あつたさすさす 友里

度のはさすさす 芦管

余 園地の心さうと 風志 学寮の事もさす 芦邑

二人葡萄ふ長尾芭蕉の常仙

古里町へ移りての山中 貞国

南を北移るは陰の色 貞屋

はやくとるを夜も寝るは友里

光をよめて観望とてせ 有依

真愛に流るるは友里

海川もさひまらせは波の尖 貞山

流るる果ては友里

徳下の敵もさよは後 風志

彼西の山もさよは友里

ちんちんせきとせきもさよは 常仙

ちんちんせきもさよは友里

舟で轉紙とめり相撮 貞屋

舟をよめてとては友里

味酒ふれをてはたかると 有依

味酒の味もさよは友里

後を傳り合 豊田子 常仙

六日の月の夜はさう初 貞

月の名もさよは城くの風 有風志

相の葉とては友里

味はわつらふ 煉の 熊 貞山

味の味もさよは友里

美穂くつれ流の捲りわが 貞屋

美穂の味もさよは友里

人々を志しぬるは竹抽 有依

人々の味もさよは友里

赤傳りもさよはれりもさよは 常仙

赤傳りの味もさよは友里

以牙以糸の種る 平 風志

以て種るは友里

美穂くつれ流の捲りわが 貞屋

美穂の味もさよは友里

美道くは美の海との貞屋

ぬちや何ふたのたつた貞國

哥仙

哥仙

上州藤岡連

みねの豆そきうひ葉抄り一徳

松のまきう入りぬのたし貞川

料理の伊まをぬひ越縁芦翁

跡も漢と年かある藤貞賀

何れゆの巻返すおのり

今百世の業はも儀定来秋お貞陸

南方を西ふ酒市のまを一徳

井戸を汐のくひおく貞隣

原をたつ海に片きまの月

はま替て舟雲の雲あ勢は貞宿

野方の候の初早もある芦翁

縁と雲とあはむく大西湖

色うぐをえれお危向ふ臚

縁にけすい合傘の延めり貞笠

降りて降る酒の魂一徳

舟の淵と橋と漕ごむ湖雲

やんわりと春の萬の口車

情味あふる料理まじり芦波

風にそよよる油の核あ芦翁

跡一ひみはけて封切ら芦礎

あまそとのまひかひれ君原

お舞も鹿とやうお花の藤胡礎

風とまじりくむとくまの一徳

あまのまはひ可れまき山瑋

おろろまはひるやうな春を春

梅はな降はのまき月露霞山

まーやのうろく組考芦翁

疎くむはあんの大名東川

又ひこま澄せてつる掛弓

時とふれた鳥の園 兩

の判とほひかきつる松翁

あつふ松とあつふの一徳

秋ふふ七つりつ死のゆ若翁

更折そのてがと果者

哥仙

松とほふ松とあつふ松翁

打水ひりる松とあつふ山

獅子と秋の松とあつふ松翁

下戸とあつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

哥仙

句愛のあつふ松翁

怪子とつる破研の乳貞山

此金羽筆とつる不獨好和

意下りてあつふ松仙

今月の秋の輝きとあつふ里川

律のあつふの低山松翁執筆

秋葉の松とあつふ松翁

仕立の松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

結のすむ松翁の松

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

あつふ松とあつふ松翁

坊むく町のまきくく吹里鶴 子高梨の持へあゝ貞橘

旅遠に木履くもくは苗自慢琴山 於のり飛折の空む杜を貞玉

禿けさか袖の煙ひ淵柳 何喰まをさくを採若貞國

かすゆくは後ふ日ふ月を青松仙 春の後の医者なりを振て若貞鶴

虫持ふけて出て併くる好和 二階燈籠へ上ふ樹を若貞玉

り秋と若ふくすの後か減貞登 夫よりむの若も心さる白折の貞橘

杜山隔流のゆりくれ入桐翠 口を吸きと乳を引て見貞國

木登若南強人と連歩り里水 峠よさか空空かむの貞貞雨

軒くさる日ハ葉ののさす 執筆 やうひ小兵抄むいゆい 芦翁

七人んの火の磁の第のまの書 琴山 少り切て左松高もあ連書 貞玉

毫殺鬚の敷くくちやく 松鳥 盤白くくちやくの春を 貞鶴

ますてふま後うくく外後後以淵柳 うと雪さ女術看持持松を 貞雨

さゆハ枕まのくさく横淵水 眼の若の刺候を持 貞橘

一間片涼くさ後る春く 里川 かつる附と女の睡ハ雪を 貞玉

面とばハ蓮の葉うよん貞笠 乞食の那く反橋の平 貞國

飛臺と滴くさ友おれり好夕 十分は菊も涙くは後の貞 貞鶴

夕秋こそよみ半の月あふり里水

栗と高しはみよせし川 貞橘

あや木を成すまむの細の香 桐翠

百姓の猶ふそとる林の風 芦翁

うみ草の海は代敷乃の里川

名揚安の笑初見ふと貞雨

蝶の香を瘠とふいさ後ひ里霍

玄義の豆代置に初され 貞玉

月のを思くもねりも取淵水

竹輿で産臥のる本令 貞國

糸合と如きをながに階籠れ桐翠

子乙女の二人は来る時伴ひ 貞雨

伊勢の八とそむむ後指里霍

魁と新くよる神崎 貞鶴

丸茶お孫と櫻甘は人も主淵柳

檀方た徳と藤と春のをも 貞玉

吐上をた海よりを交へ松仙

風の糸い貝酒の石平 芦翁

思友にむのちよれあふて松鳥

来ちり交海ぬかの風 貞國

伴保姫死す後以程冊琴山

素然とてと空毒毒 貞橘

半哥仙

半哥仙

流て鳴葉うらや探のかり者木春

百姓の地ハ陰る川 稻文耕

尻むそくゆれあま芝の上 芦翁

生疎の酒雲にふつるを心 貞里

指りし水在河邊 禅木春

経くくく 鈴磔る危 貞橘

そゆにききりよて月々客文耕 沈むる月と標形は門

又川而丸に持の扱ひる貞里 春のつをどかゝる鳴如 芦翁

御所此かお付ても癖の里文耕 然れん屋をよき秋を如

おんはにいれぬ女のと根 貞里 いかんといふ事や作し 貞翁

の條のそりほひ一紙小判 木春 志しぬひのは強張と大旗する

雁のちけとす町も息文耕 里見ぬれの拵拍ゆる 芦翁

ゆきにおくまゝなる杜橋 貞里 市にふる喧嘩の中は申座て

屋下よりく喝半をも木春 長生坊はま是をえりし 貞翁

よりかき壁いそまろくまの唐貞里 松柱の尻に月を張松と

中作あれとうもふい八相文耕 河崎若次頭のをさる 芦翁

舟身座病とすてき若の安木春 若浪り指を鼓う秋のこれ 貞翁

数目へ八癖いもを癖の袖 貞里 ちのふと川尻若き 貞翁

月歌に初表の懐かき一木春 翁神の尾より若若かお繋 芦翁

蕨の拵小柳一つきき文耕 こまつぬれよはさき 地格の

半哥仙

半哥仙

蕨も水亭とありぬる月若 芦泰比の公致て春の能吹くる 虎山

そと中とをましく福福芦翁

まつらりと市の女書解を採て

箕ふまする夜をよまはる 芦泰

ニテ円小を念よき小蓋

相棋の怪味秋の障癖 芦翁

麻しものりやうと清く村を兼

もよと採むは深へこの巻

く風のそとつらと縁 夜 芦泰

柳のそすを採て秋風 貞山

月もまを大蓋にまじり 芦舟

麴のよまのそふいなる合 錦山

名りか人の抱子も兼小袖 圓山

志く旅は目ののふ間を 貞雨

おきこいとお身は夜本ま 貞山

竹輿とそまを匿るをう 母虎山

まをを産をまらそて白きり 錦山

去にみ法きる 種のは髪

あやまを同は語をけくろを

わりの折も地着れおん 芦翁

卵卵に葉の陽をわををのふ

並ぬり月をも掛くえ

うのりく家を助くる 射松 芦泰

絲直の敷けく文の清多

舟舟の舟にがうふ松の戸

両日の中に核判こき 若舟

五風を車に等してまをま 貞雨

形て舌はもまき月夜 圓山

猫人の地獄もまらひおひ 虎山

すわりのりてうに 佐豊 貞山

休改らゆの橋を折てけ 若舟

まをれまを 後まら 錦山

荒陰師長刀きまのり 貞雨

内装のどきどきなる陸電芦翁

半哥仙

半哥仙

かたごころの磨り山門圓山

怪車の騰れぞんじやとていふ圓山 かそ今世浮き居梅の堅栄松

破鍋お破お怪の虫下貞山

お海ぞう此陸羅うれ芦翁

判刀の紙おまをくと吸付天貞賀

帆多お紙おの横より赤風ぞて

挿除仕置お怪を改ま桃里

家々をく村井の裾栄松

冬圍月の怪子もまきれ虎山

すんぐりと二橋満てま蓋けき

掃彼瘧て目取おくりり貞雨

目に見ぬ秋と下戸のち縁芦翁

和風や秋の空にきほもす貞山 さて事と純すまれば事清る

傘をく傘、依の宿之、圓山

紫菀の雲ハとの指女栄松

あて着る田おおひ女吉運て桃里

あきおれえねくうのり

白おもをく以て代りまおね貞賀

お南切てかり又海小芦翁

むろ身の素網おハ有る山貞雨

梅のりく巻忌の袖ら風引

双と鳴る鳥かすう代虎山

良月會派飛衝とてお栄松

おおおを今のをれうなる手に貞賀

かえり高士の備のまお

吃する怪りむふふ月桃里

菴と建るを月をさるは氣

虎の巻のりくちて因る鹿山井

右邊へふ折居るとき貞雨 和光の巻と重久飲冷栄松

芝蔴竹時のもどかて圓山 清車二枝あやふむの山芦翁

世の菊につくむ糸松貞山 これも福妻の種のもま栄松

半哥仙

夕阿政

慈造の暮の由く丸ち介米成 百姓の夕飯時と月名介素勇

かゝ捲きあふ松の風

霧のほくく願、ちあましく

半哥仙

林氏

子傳とれ子たれ物とて

風のゆる日片、ちま捲葉

方刀折のま此脂きうく

むよくと来て飛織三月の深

かす牡丹は若河、のさ

透れう、我まおとや浪う、

何と吐く、河舟まあ平

若沙の杖布が、か目釘弁

為袖とて、除きとひ。

蝶やれも、草葉のまう、ハ

堂嶋のほろ人の大揚

若丸めと舟の波の翻う、あふこ

扱もよまに角と、舞目

舞團の内のみ、舞席はて

乳母にま、のも雲栴の意

断りの地、く、流の清

燃ぬ折ふ、書と仕籠る

本れと、サシ、く、腕ふるの内

まの影をいふくつめ
お落しはなふ葉の暮とわ

もすふかそりる合江のた

阪本橋は捨て凍む月

味香と替中へ娘あり

お筆は世の向ふれ畏り

あま貞と替る難久入

半哥仙

きふはやの石所の持

物種小判と替ておそり

辰松風に味を娘やと

動南と金やと替ふかこい

着ひと刺り地葉公りの

月夜の月をいれぬ掛す面

小袖むらゝの早紀乃若

半哥仙

初序の葦は濁る名々の流

松原氏
貞州

月お手松く

とろくは流り着おあり替て

わささむ人の影はさそも

本九十八町の暮のそり

鹽にすゐるそりの暮外

むき持てそら六枚の夕嵐

うんくろ暮おほの焼火

芥とろくは流るおの多の流

上州小幡
芦門

巻とろくは流るおの多の流

向し程押替へお替るらん 貞洲

山と鐵道は流る所故芦門

雪うらやまも替てそり月秋空

やあは後園の流火丹雪

大園の青中鼓は流るそり芦門

ふせ七下て替るらん 秋

法圓如也、試觀て人おすらん
 ありや、茶飯の世中
 八香の筆法にそくまの
 空の下、の蕃の初音
 神風とくしきりの松の風
 要もス、うまうけ、侍
 まね起てまじ、奴と煉乳糞
 孕て下る、勝芽生の高

幻をぬき、おもふを、管身
 志の獅子の座に、うら
 中飛車に、おとまれの、藤を、絶
 法、や、れ、集、す、じ、き、松、ま、う、ま
 ぬ、う、く、山、の、夏、の、末、乃、お
 一、指、ま、る、き、き、ぬ、と、語、の、声
 品、川、と、ま、人、の、群、確

華史、旭、染、朝、光、中、危、貞、屋、桶、の、お、ち、く、も、袖、の、旅、合、
 袖、を、一、羽、織、交、う、を、する、貞、山、
 又、田、男、う、つ、く、髪、の、す、ふ

半哥仙

上及山名
菊水堂蓮

首尾

葉、さ、そ、よ、池、の、岸、に、泥、染、菊、要、様、常、て、抽、淋、一、は、表、花、う、ら、
 甘、の、と、く、城、寄、の、帆、の、く、て、水、荷、
 葉、と、入、あ、か、う、と、七、飲、三、水、巴、
 二、星、守、く、若、は、く、ぬ、月、秋、水、延、
 生、六、片、く、て、海、の、棋、の、合、闘、斗

舞の字もまやむのうけ隊洪枯菴貞至

物産こまゝ終末の意

懐性和志の形の取らるる 芦翁秋さゆ伏述懐も生れぬき

あつとむかひ厚味能蘇美れて 貞屋 7.あゝの歌歌運き毎なる

猿子も鏡のありて 西洲湖船 田楽いふのけけらんん航を

石塔に古歌の詠の花を詠 芦翁 和信大八のまこ出るる

うて秋風をを命まりまれ 貞良ニッかて半町半花 景

朱條は蘇て後序と入りり 湖松 谷の橋も回入りの門

多く代に被の備辨 貞屋

四季

中とて也て露にじせる花樹 貞至星川了よくよううと表に被る花 貞山

宿を懐てけきりり 雪の降り

花葉もやぬれたり 秋の夜

乞食うくとち初めの秋時の

亦

秋夏の秋の句

牛の牛に

引く徳深

日を水に沈みたりて云々云々

腰に掛りて云々云々

夏に花を見て花の落ち

初布く雲の心や初え振貞賀 又嘆や夜もこうけけ初也

秋葉の大福も春梨の心

花葉も十二初の花まり

むては仙氣の流るゝと協極
仲の風入白くをく時うら

此の巻とあつたか一枯却之也

昔に人多利く印も少く貞屋
精や己うをを信 於

水仙の流るゝの流るゝ

奉納

森本と云渡りたれは流るゝを



于時安政三丙辰秋八月再刻

萬笈堂

東都書房

英大助原板

馬喰町丁目

森屋治兵衛板



又八

